松江市文化財調査報告書　第78集

# 本庄地区県営圃場整備事業に伴う
# 松江北東部遺跡発掘調査報告書

平成11年3月

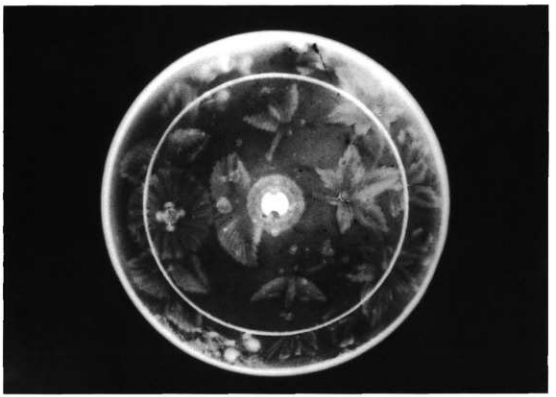
松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団

松江市文化財調査報告書　第78集

# 松江北東部遺跡発掘調査

平成11年3月

松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団



菊花幌双鳥鏡

平成８年度出土子持勾玉

菊花帳双鳥鏡

平成８年度出土土師質土器

# 例　　言

1．本書は島根県松江農林振興センターが本庄地区・新庄地区の圃場整備事業を実施するのに伴い、昭和61年度～平成９年度にかけて事前に松江市教育委員会が行った発掘調査の報告書である。

2．発掘調査は、松江市が島根県農林振興センターの委託金および文化庁の国庫補助金を得て実施したものである。

3．発掘調査組織は次のとおりである。

委　託　者　　島根県松江農林振興センター

受　託　者　　松江市

主　体　者　　松江市教育委員会

昭和61（1986）年度

調査担当者　松江市教育委員会社会教育課文化係　係　長　岡崎　雄二郎

調　査　員　松江市教育委員会社会教育課文化係　嘱託員　錦織　慶樹

昭和62（1987）年度

調査担当者　松江市立女子高等学校教諭　吉子　寛光

調　査　員　松江市教育委員会社会教育課文化係　嘱託員　青木　博

昭和63（1988）年度

調査担当者　松江市立女子高等学校教諭　吉子　寛光

調　査　員　松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　寺本　康

平成元（1989）年度

調査担当者　松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　飯塚　康行

調　査　員　松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　宮本　英樹

松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　寺本　康

松江市教育委員会社会教育課文化係　嘱託員　錦織　慶樹

松江市教育委員会社会教育課文化係　嘱託員　今岡　一三

平成２（1990）年度

調査担当者　松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　飯塚　康行

調　査　員　松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　宮本　英樹

松江市教育委員会社会教育課文化係　主　事　寺本　康

松江市教育委員会社会教育課文化係　嘱託員　錦織　慶樹

松江市教育委員会社会教育課文化係　嘱託員　今岡　一三

平成３（1991）年度

調査担当者　松江市教育委員会文化課文化財係　係　長　岡崎　雄二郎

調　査　員　松江市教育委員会文化課文化財係　主　事　宮本　英樹

平成4（1992）年度

調査担当者　松江市教育委員会文化課文化財係　主　事　宮本　英樹

調　査　員　松江市教育委員会文化課文化財係　嘱託員　稲山　　奨

平成5（1993）年度

調査担当者　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　調査員　宮本　英樹

調　査　員　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　嘱託員　稲山　　奨

平成6（1994）年度

調査担当者　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　調査員　金山　正樹

調　査　員　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　嘱託員　稲田　　奨

平成7（1995）年度

調査担当者　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　係　長　中尾　秀信

調　査　員　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　調査員　遠藤　正樹

財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　嘱託員　稲田　　奨

平成8（1996）年度

前期調査

調査担当者　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　係　長　瀬古　諒子

調　査　員　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　嘱託員　広濱　貴子

後期調査

調査担当者　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　調査員　石川　　崇

調　査　員　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　嘱託員　北島　和子

平成9（1997）年度

調査担当者　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　調査員　吾子　寛光

調　査　員　財団法人松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課　嘱託員　松下　　剛

平成10（1998）年度

作成担当者　松江市教育委員会生涯学習課文化財室文化財係　主　事　金山　正樹

作　成　者　松江市教育委員会生涯学習課文化財室　室　長　岡崎　雄二郎

松江市教育委員会生涯学習課文化財室文化財係　嘱託員　飯塚　啓太

4．発掘調査に際しては、次の方々に指導・助言をいただいた。記して感謝する次第である。

山本　清（島根大学名誉教授），渡辺貞幸（島根大学法文学部教授）、田中義昭（島根大学法文学部教授）、三浦　清（島根大学名誉教授）、中村唯史（島根大学汽水域研究センター客員研究員）

前田洋子（大阪市立博物館学芸員）（敬称略、順不同）

5．本書の作成については以下の者が携わった。

（実測）各年度の担当者、岡崎、金山（浄書）各年度の担当者、金山、飯塚

6．本書の執筆は各年度の担当者が行い、これを金山が編集したものである。

7．報告書に記載された遺物・図面・写真等はすべて松江市教育委員会で保管している。

# 目　　次


Ⅰ．調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ．周辺の歴史的環境 …… 3
Ⅲ．各年度の調査報告 …… 19
昭和61（1986）年度 …… 19
昭和62（1987）年度 …… 28
昭和63（1988）年度 …… 33
平成元（1989）年度 …… 44
平成２（1990）年度 …… 72
平成３（1991）年度 …… 106
平成４（1992）年度 …… 117
平成５（1993）年度 …… 134
平成６（1994）年度 …… 144
平成７（1995）年度 …… 148
平成８（1996）年度 …… 151
平成９（1997）年度 …… 174
梨子谷遺跡 …… 181
Ⅳ．結　び …… 187

# 挿図目次


第1図　島根県地図 …… 2
第2図　松江北東部遺跡位置図 …… 2
第3図　松江北東部遺跡と周辺の遺跡 …… 3
第4図　松江北東部遺跡発掘調査箇所 …… 5
第5図　昭和61・63・平成元・2年度調査箇所 …… 6
第6図　昭和62年度調査箇所 …… 7
第7図　平成元年度調査箇所 …… 8
第8図　平成元・8年度調査箇所 …… 9
第9図　平成2・3年度調査箇所 …… 10
第10図　平成3年度調査箇所（Ⅰ） …… 11
第11図　平成3年度調査箇所（Ⅱ） …… 12
第12図　平成4年度調査箇所（Ⅰ） …… 13
第13図　平成4年度調査箇所（Ⅱ） …… 14
第14図　平成5年度調査箇所 …… 15
第15図　平成5・6・7年度調査箇所 …… 16
第16図　平成6・8年度調査箇所 …… 17
第17図　平成9年度調査箇所 …… 18

**昭和61年度**

第18図　T－2・3・4調査成果図 …… 19
第19図　T　5・6調査成果図 …… 20
第20図　昭和61年度出土遺物実測図 …… 22
第21図　SI－01実測図 …… 23
第22図　SI－01出土遺物実測図 …… 26

**昭和62年度**

第23図　T　3上層断面図及びSK－01実測図 …… 28
第24図　T－5調査成果図 …… 29
第25図　T－12調査成果図 …… 29
第26図　T－17調査成果図 …… 30
第27図　SK－02・03実測図 …… 31
第28図　昭和62年度出土遺物実測図 …… 31

**昭和63年度**

第29図　T－7・8・11、G－8調査成果図 …… 33

第30図　G－14・17・18・20調査成果図 …… 34
第31図　G－23・31調査成果図 …… 36
第32図　G－10・34・27・30・9調査成果図 …… 38
第33図　G　12調査成果図 …… 38
第34図　昭和63年度出土遺物実測図（Ⅰ） …… 40
第35図　昭和63年度出土遺物実測図（Ⅱ） …… 41
第36図　昭和63年度出土遺物実測図（Ⅲ） …… 42
平成元年度
第37図　SB－01実測図 …… 44
第38図　的場古墳調査成果図 …… 45・46
第39図　SB－02実測図 …… 48
第40図　SB－03実測図 …… 49
第41図　SB－04実測図 …… 50
第42図　SB－05実測図 …… 50
第43図　SB－06実測図 …… 51
第44図　SB－07実測図 …… 52
第45図　SB－09実測図 …… 52
第46図　SB－08実測図 …… 53
第47図　SB－10実測図 …… 54
第48図　SB－11実測図 …… 54
第49図　SK－01実測図 …… 55
第50図　SK－02・03・04実測図 …… 56
第51図　SK－05実測図 …… 57
第52図　SK－06実測図 …… 58
第53図　SE－01実測図 …… 59
第54図　ST－01実測図 …… 61
第55図　SI－02実測図 …… 62
第56図　SI－02出土遺物実測図 …… 63
第57図　的場1・2号墳調査成果図 …… 64
第58図　的場1・2号墳周溝内土層堆積状況 …… 64
第59図　的場1号墳出土遺物実測図 …… 64
第60図　的場1号墳周溝西側遺物出土状況 …… 65
第61図　南側拡張区出土遺物実測図 …… 66
第62図　平成元年度出土遺物実測図（1） …… 67
第63図　出土木製品実測図（Ⅰ） …… 68

第64図　出土木製品実測図（Ⅱ）…… 70
第65図　平成元年度出土遺物実測図（Ⅱ）…… 71

平成２年度

第66図　的場丘陵北部地域調査成果図…… 72
第67図　的場丘陵北側区域調査成果図…… 73・74
第68図　的場３号墳、ＳＫ－09実測図…… 76
第69図　的場４号墳実測図…… 77
第70図　的場５号墳実測図…… 78
第71図　的場６号墳、ＳＩ－03、ＳＫ－17実測図…… 79
第72図　的場７号墳、ＳＩ－04実測図…… 80
第73図　的場８号墳実測図…… 81
第74図　ＳＤ－01実測図…… 83
第75図　中世墓Ⅰ平面図…… 84
第76図　中世墓Ⅰ実測図…… 85
第77図　中世墓Ⅱ実測図…… 87
第78図　的場９号墳、ＳＢ－03～09、ＳＫ　22～27実測図…… 92
第79図　ＳＫ－15実測図…… 95
第80図　ＳＫ－15土類出土状況…… 95
第81図　ＳＫ－25実測図…… 99
第82図　的場10号墳実測図…… 100
第83図　的場11号墳実測図…… 101
第84図　11工区調査トレンチ土層断面図…… 102
第85図　平成２年度出土遺物実測図…… 105

平成３年度

第86図　平成３年度調査トレンチ土層断面図…… 107
第87図　平成３年度出土遺物実測図…… 109
第88図　９工区下－４出土土師実測図…… 109
第89図　中西古墳周囲平面図…… 110
第90図　９　Ａ区調査平面図…… 111
第91図　９－Ａ区土層断面図…… 111
第92図　９－Ａ区出土遺物実測図（Ⅰ）…… 112
第93図　９－Ａ区出土遺物実測図（Ⅱ）…… 113
第94図　９－Ｄ区調査平面図…… 114
第95図　９－Ｄ区調査トレンチ土層断面図…… 115
第96図　９　Ｄ区出土遺物実測図…… 116

平成４年度
第97図　京殿遺跡（９－Ｃ区）遺物散布状況図 …… 117
第98図　京殿遺跡（９－Ｂ区）遺物散布状況図 …… 118
第99図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅰ） …… 123
第100図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅱ） …… 124
第101図　14工区Ｔ－２拡張区遺物散布状況図 …… 125
第102図　14工区Ｔ－19拡張区ＳＤ－01実測図 …… 128
第103図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅲ） …… 130
第104図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅳ） …… 131
第105図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅴ） …… 132
第106図　平成４年度出土遺物実測図（Ⅰ） …… 133
第107図　平成４年度出土遺物実測図（Ⅱ） …… 133
平成５年度
第108図　平成５年度調査トレンチ土層断面図（Ⅰ） …… 138
第109図　平成５年度調査トレンチ土層断面図（Ⅱ） …… 139
第110図　平成５年度調査トレンチ土層断面図（Ⅲ） …… 141
第111図　平成５年度出土遺物実測図 …… 143
平成６年度
第112図　平成６年度調査トレンチ土層断面図 …… 145
第113図　平成６年度出土遺物実測図 …… 147
平成７年度
第114図　平成７年度調査トレンチ土層断面図 …… 149
第115図　平成７年度出土遺物実測図 …… 150
平成８年度前期
第116図　第１調査区平面図 …… 152
第117図　ＳＤ－01・02実測図 …… 153
第118図　ＳＢ　01実測図 …… 154
第119図　第１調査区出土遺物実測図 …… 155
第120図　第１調査区出土子持勾玉実測図 …… 156
第121図　第２調査区土層断面図 …… 157
第122図　第２調査区出土遺物実測図（Ⅰ） …… 158
第123図　第２調査区出土遺物実測図（Ⅱ） …… 158
第124図　第３調査区平面図 …… 160
第125図　ＳＩ　01出土遺物実測図 …… 161
第126図　ＳＩ－01実測図 …… 162

第127図　ＳＩ－02実測図 …… 163
第128図　ＳＩ－02出土遺物実測図 …… 163
第129図　ＳＩ－03実測図 …… 164
第130図　ＳＩ－03出土遺物実測図 …… 165
第131図　ＳＢ　02実測図 …… 166
第132図　ＳＢ　03実測図 …… 167
平成８年度後期
第133図　10工区調査トレンチ土層断面図 …… 169
第134図　Ｔ－11実測図 …… 170
第135図　Ｔ－11遺物出土状況図 …… 171
第136図　Ｔ－11出土土師質土器実測図 …… 172
第137図　Ｔ－11出土鉄製品実測図 …… 173
平成９年度
第138図　平成９年度調査トレンチ土層断面図 …… 175
第139図　Ｔ－５出土有舌尖頭器実測図 …… 176
第140図　Ｔ－９実測図 …… 178
第141図　ＳＫ－01出土遺物実測図 …… 180
梨子谷遺跡
第142図　梨子谷遺跡位置図 …… 182
第143図　溝状遺構（ＳＤ－01・02・03）平面図 …… 183
第144図　梨子谷遺跡調査トレンチ土層断面図 …… 184
第145図　梨子谷遺跡出土遺物実測図（Ⅰ） …… 185
第146図　梨子谷遺跡出土遺物実測図（Ⅱ） …… 186

# 図版目次

菊花蝶双鳥鏡
平成８年度出土了持勾玉
菊花蝶双鳥鏡、平成８年度出土土師質土器
昭和61年度
Ｔ－１区完掘状況 …… 19
ＳＩ－01内土層堆積状況、完掘状況 …… 25
Ｔ　５区柱穴検出状況、Ｔ－６区溝状遺構及び柱穴完掘状況 …… 27

昭和62年度
ＳＫ－01完掘状況、ＳＫ－02検出状況 …… 30
Ｔ－17柱穴・土壙検出状況、上層堆積状況 …… 32
昭和63年度
Ｔ－７完掘状況 …… 33
Ｇ－８区柱穴検出状況、Ｇ－９区柱穴検出状況 …… 34
Ｇ－10・27区完掘状況 …… 35
Ｇ－14・17・18区完掘状況 …… 37
Ｇ－20・23・30区完掘状況 …… 39
平成元年度
ＳＢ－01完掘状況 …… 44
ＳＩ－01及び掘立柱建物跡完掘状況 …… 47
的場丘陵南側掘立柱建物跡完掘状況 …… 48
ＳＫ－05及び掘立柱建物跡完掘状況 …… 49
ＳＥ－01及びＳＢ－08完掘状況 …… 51
ＳＫ－01完掘状況 …… 55
ＳＫ－04・05内上層堆積状況 …… 57
ＳＫ－06内土層堆積状況 …… 58
ＳＥ－01底部検出状況 …… 59
ＳＤ－01完掘状況、ＳＤ－01・02底部検出状況 …… 60
小鍛冶跡土層堆積状況 …… 60
ＳＩ－02完掘状況 …… 63
的場１・２号墳完掘状況 …… 63
Ｔ－23土器出土状況 …… 65
Ｔ　18本器検出状況、完掘状況 …… 69
３工区Ｔ－16上層堆積状況 …… 70
平成２年度
的場３号墳・４号墳完掘状況 …… 75
的場５号墳完掘状況 …… 78
的場６号墳完掘状況 …… 79
的場７号墳完掘状況 …… 80
的場８号墳完掘状況 …… 81
ＳＩ－03・04完掘状況 …… 82
ＳＤ－01完掘状況、遺物出土状況 …… 83
中世墓Ｉ検出状況 …… 84

中世墓Ⅰ内備前壺検出状況、完掘状況 …… 86
中世溝Ⅱ完掘状況 …… 87
中世墓Ⅱ内道安窯系青磁碗検出状況 …… 88
中世溝Ⅱ内和鏡検出状況 …… 88
ＳＢ－01・02・03完掘状況 …… 89
ＳＢ－03～08完掘状況、発掘現場作業風景 …… 90
ＳＢ－04～06、07・08完掘状況 …… 91
ＳＢ－09完掘状況 …… 93
ＳＫ－15内上層堆積状況、内玉類出土状況 …… 93
ＳＫ－15内出土玉類 …… 94
ＳＫ－25検出状況、内上層堆積状況 …… 96
ＳＫ－25内埋土除去後 …… 97
的場10・11号墳検出状況 …… 97
的場10号墳周溝内上層堆積状況、完掘状況 …… 98
的場11号墳周溝内上層堆積状況、完掘状況 …… 98
Ｔ－15・23完掘状況 …… 103

**平成３年度**

４工区Ｔ－８完掘状況 …… 106
９工区Ｔ－３・４・７・８・10・12完掘状況 …… 108
９工区Ｔ－４土層出土状況 …… 109
９工区Ｔ－13完掘状況、中西古墳検出状況 …… 110
９－Ａ区全景 …… 112
９－Ａ区遺物出土状況 …… 113
９－Ｄ区全景 …… 114
Ｔ－２・６遺物出土状況 …… 116

**平成４年度**

Ｃ－11区完掘状況、Ｄ－８区遺物出土状況 …… 118
Ｄ－８区・Ｅ－11区・Ｅ－12区・Ｆ－４区完掘状況 …… 119
Ｈ－３区・Ｈ－４区・Ｉ－２区完掘状況、Ｉ－２区遺物出土状況 …… 120
５工区Ｔ　４・９・11・12・13完掘状況 …… 121
５工区Ｔ－15～17・19完掘状況 …… 122
14工区Ｔ　１・２・４・６完掘状況 …… 125
14工区Ｔ－７～10完掘状況 …… 126
14工区Ｔ　12～14・17完掘状況 …… 127
14工区Ｔ－17・18完掘状況 …… 128

14工区Ｔ－２拡張区上層堆積状況 …… 129
14工区Ｔ－２拡張区遺物出土状況 …… 129
14工区Ｔ－２拡張区完掘状況 …… 129
14工区Ｔ－19及び拡張区完掘状況 …… 132
Ｔ－19拡張区上層堆積状況 …… 133
平成５年度
13工区Ｔ－１・２完掘状況 …… 134
13工区Ｔ　３・５～７完掘状況 …… 135
13工区Ｔ－８・10～12完掘状況 …… 136
13工区Ｔ－13・Ｔ－15・17・18完掘状況 …… 137
13工区Ｔ－19・20完掘状況 …… 140
８工区Ｔ－１～４完掘状況 …… 140
８工区Ｔ－５・６・10完掘状況 …… 142
平成６年度
７工区Ｔ－７・11・12完掘状況 …… 144
８工区Ｔ－32完掘状況 …… 145
８工区Ｔ－40完掘状況 …… 146
平成７年度
Ｔ－１～３完掘状況 …… 148
平成８年度前期
７工区調査前全景 …… 151
ＳＤ－01検出状況、ＳＤ－01の石列と上石流 …… 152
ＳＢ－01検出状況 …… 153
小竪穴状遺構検出状況 …… 154
第１調査区遺物出土状況 …… 156
Ｔ－２－２完掘状況、遺物出土状況 …… 157
Ｔ－２－３完掘状況 …… 157
第３調査区全景 …… 159
ＳＩ－01検出状況、ＳＩ－01遺物出土状況 …… 159
ＳＩ－02検出状況 …… 162
ＳＩ－03検出状況 …… 164
ＳＢ－02・03検出状況 …… 167
平成８年度後期
10工区全景、Ｔ　５・６完掘状況 …… 168
土師質土器出土状況、鉄製品出土状況、Ｔ－12完掘状況 …… 170

T－11出土鉄製品 …… 173
平成９年度
12工区全景、T－１・２完掘状況 …… 174
T　3・4完掘状況 …… 175
T－５・６完掘状況、T－５出土有舌尖頭器 …… 176
T－７・８・９完掘状況 …… 177
ＳＢ－01・02検出状況 …… 178
ＳＫ－01・03検出状況 …… 179
梨子谷遺跡
14工区全景 …… 181
出土遺物図版
昭和61年度 …… 197
昭和62・63年度 …… 198
昭和63年度 …… 199
昭和63・平成元年度 …… 200
平成元年度 …… 201
平成２年度 …… 202
平成３年度 …… 203
〃 …… 204
〃 …… 205
〃 …… 206
平成４年度 …… 207
平成５年度 …… 208
〃 …… 209
平成６年度 …… 210
〃 …… 211
平成７年度 …… 212
平成８年度前期 …… 213
平成８年度後期 …… 214
平成８後期・９年度 …… 215
梨子谷遺跡 …… 216

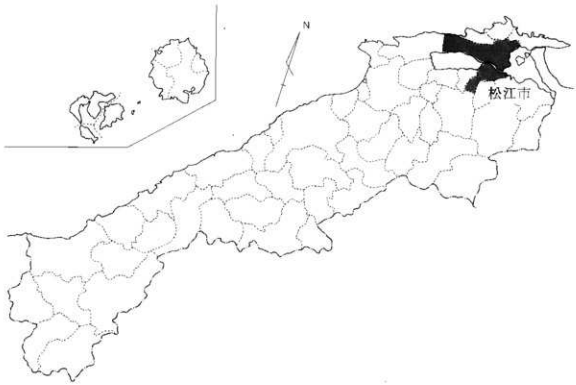
# Ⅰ．調査に至る経緯

島根県松江農林振興センターでは、昭和62年度から本庄地区県営圃場整備事業として、松江市上本庄町の本庄川周辺の水田地61.4ｈａを10ヶ年計画で整備することとなったが、この本庄平野一帯が「本庄川流域条里制遺跡」として周知され、その他にも「京殿遺跡」「原ノ後遺跡」が含まれていたため、工事に先行し事前に発掘調査をする必要が生じた。また、水田下にも未曾有の遺跡が内包されていることも想定されたため昭和61年度から工事区域内一帯の試掘調査を実施することとなった。

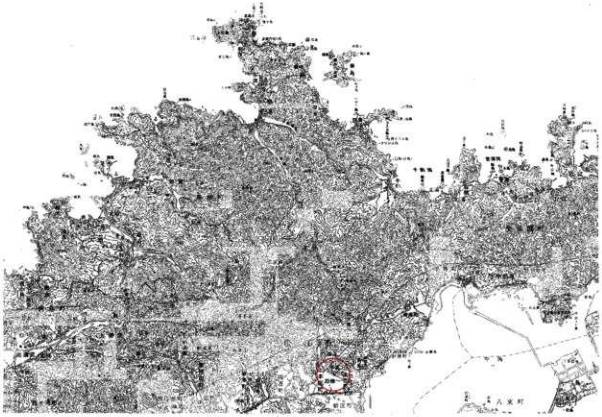
昭和61年度の試掘調査の結果、本庄平野東端に位置する低丘陵上に「的場遺跡」の存在が明らかとなり、平成２年度までの調査の結果、古墳時代の竪穴式住居跡、古墳等が検出された。また、平成４年度の調査の結果、本庄平野北部に古墳時代から奈良時代を主体とした遺物散布地「京殿遺跡」の所在が確認された。平成５～８年度は本庄平野南側について調査を実施し、弥生～古墳時代の竪穴式住居跡、掘立柱建物跡がそれぞれ確認されている。平成９年度においては「荒船遺跡」の調査を実施しており、掘立柱建物跡、土壙が確認されている。

本庄平野西側については松江市西川津町から本庄町の間にバイパスの計画が挙がり、島根県教育委員会において分布調査・本調査を実施しており、平成９年度には松江市上本庄町字大坪を中心とする本庄川流域条里制遺跡の発掘調査を実施した。その結果、本庄平野東側に位置する的場丘陵を削平して農地が作られているが、現本庄川周辺については弥生時代～近世に至る間河川や沼地、湿地といった自然環境であり、近年湿地に廃土等を施して農地にしたものと考察している。

島根県教育委員会『荒船古墳群・荒船遺跡・本庄川流域条里制遺跡(2)』1998年
―国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－




第1図　島根県地図



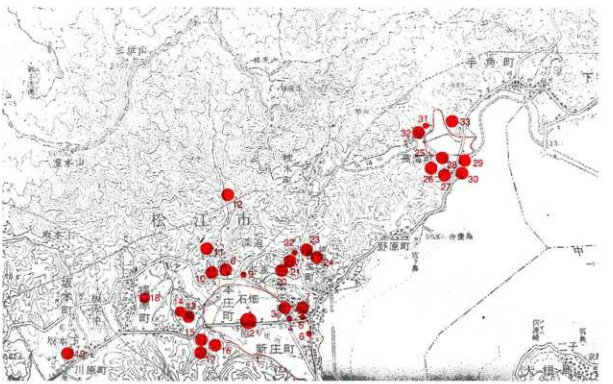
第2図　松江北東部遺跡位置図

# Ⅱ．周辺の歴史的環境

松江北東部遺跡は本庄川流域条里制遺跡、原ノ後遺跡、的場遺跡、京殿遺跡、荒船遺跡を総称して呼んでいる。北に枕木山、南に中海を臨む本庄川流域条里制遺跡(1)は、松江市上本庄町から新庄町にかけての扇状地を形成する本庄平野一帯に存在し、現在の土地区画は1辺100m余りの正方形をしており、古代律令制の普及による条里制を忍ばせる。北側には京殿遺跡(8)、東側西秋丘陵上には的場遺跡(3)、西側には荒船遺跡(18)、中心に原ノ後遺跡(2)が存在する。

周辺に縄文時代以前の性格を現す遺跡は明確にされていないが、本庄川の南を中海に注ぐ南川の改修工事の折りに後期旧石器時代前半か以前の石器でルヴァロア型尖頭器が発見されている。また、平成9年度調査した荒船遺跡(18)では縄文時代草創期の有舌尖頭器が、上宇部尾町からは安山岩製の有舌尖頭器の一部がそれぞれ発見されている。松崎遺跡については縄文時代後期頃と思われる打製石器が出土している。手角町の夫手遺跡(28)では縄文草創期の土器が出土している。

弥生時代後期以降になると遺跡の数が徐々に増加し始める。的場遺跡(3)からは弥生時代から古墳時代の竪穴式住居跡、古墳、中～近世にかけての掘立柱建物跡群、土壙墓、井戸、小鍛冶跡が検出され、弥生時代～近世にかけての幅広い時代の生活空間及ぶ意域を感じ取ることができる。坂本中遺跡は弥生時代後期から古墳時代までの大規模な集落遺跡である。



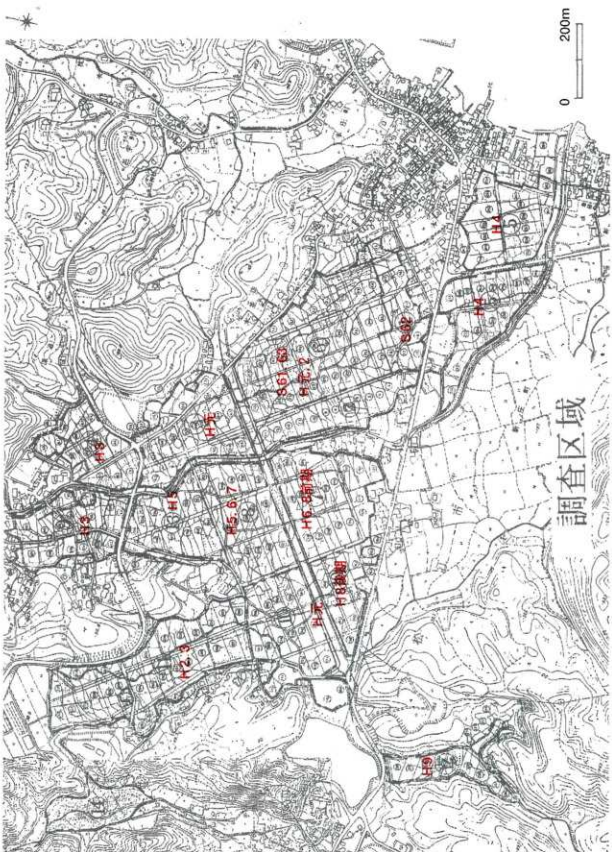

第3図　松江北東部遺跡と周辺の遺跡（S＝1／25,000）

1．本庄川流域条里制遺跡　2．原ノ後遺跡　3．的場遺跡　4．塚根古墳　5．天神山古墳　6．大塚古墳
7．天神山遺跡　8．京殿遺跡　9．深迫古墳　10．中西古墳群　11．金比羅古墳群　12．梨子谷遺跡
13．平田古墳群　14．玉野寺跡　15．荒船遺跡　16．前田遺跡　17．荒船古墳群　18．芝原遺跡　19．清井原古墳
20．鉾古墳群　21．月光寺遺跡　22．上松古墓　23．家床遺跡　24．兵ヶ谷古墳群　25．長海条里制遺跡
26．渕切古墳群　27．藤田古墳群　28．杉戸遺跡　29．夫手遺跡　30．柳瀬遺跡　31．弁慶森遺跡　32．善尾遺跡
33．堀越古墳群

古墳時代に入ると前期には道仙古墳群が出現する。1辺10m、高さ1m程の方墳が4基あり、木棺直葬の主体部や土師器の壺等が出土している。中期に方墳2基、円墳2基からなる細首古墳群があり、1号墳では木棺から勾玉、管玉、刀子、土師器等が出土している。客山古墳群からは仿製九乳文鏡、刀子、管玉、ガラス小玉漆塗りの竹製竪櫛、土師器壺片が出土している。北方に古墳時代後期の群集墳が同一丘陵上に多く分布しており、金崎谷古墳群(11)、小馬枝古墳群、10基以上で石室に板状の石を使用したものや円筒埴輪を配した中西古墳群(10)、荒神古墳群が出現する。

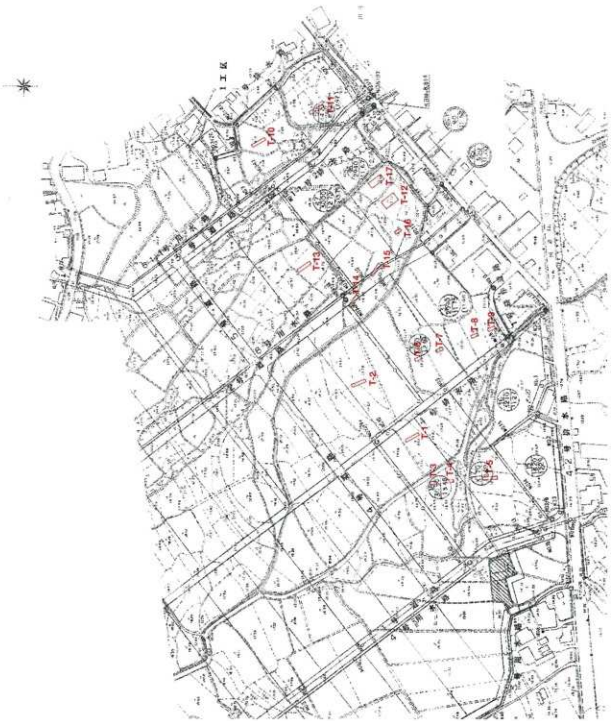
古墳時代から律令期の遺跡として上本庄町の京殿遺跡(8)、福原町で芝原遺跡(18)がある。前者は平成4年度の調査により土製馬や硯が出土している。後者については『出雲国風土記』から毛志山（澄水山)、布自枳美高山（満山)、女岳山などが近くの山の方位、里程から島根郡家域に含まれる可能性が高い遺跡で製塩土器や墨書土器などが出土している。

松江市教育委員会『芝原遺跡発掘調査報告書』1989年
松江市教育委員会『松江北東部遺跡発掘調査概報』1990年
－本庄川流域条里制遺跡－　－的場遺跡－
島根県教育委員会『本庄川流域条里制遺跡発掘調査報告書』1997年
－国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－

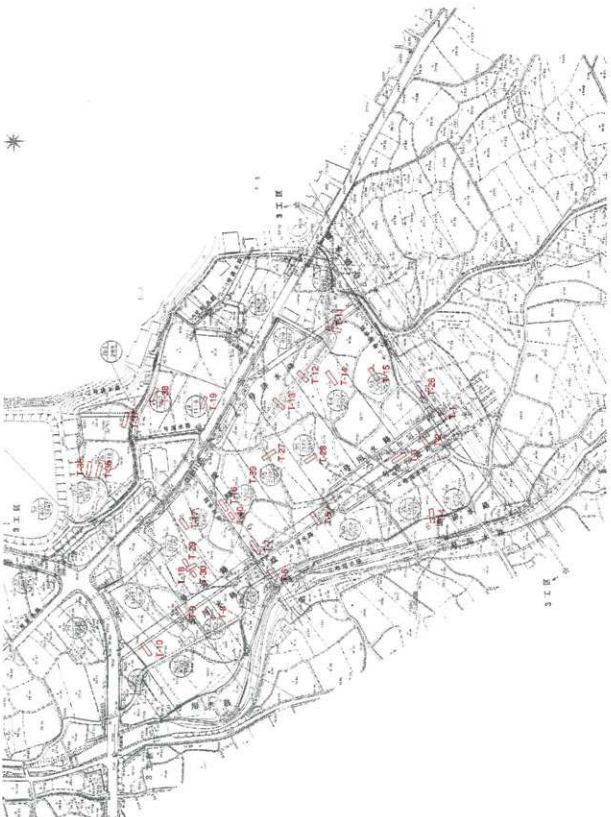



第４図　松江北東部調査区域

第５図　昭61、63、平成元、２年度調査箇所

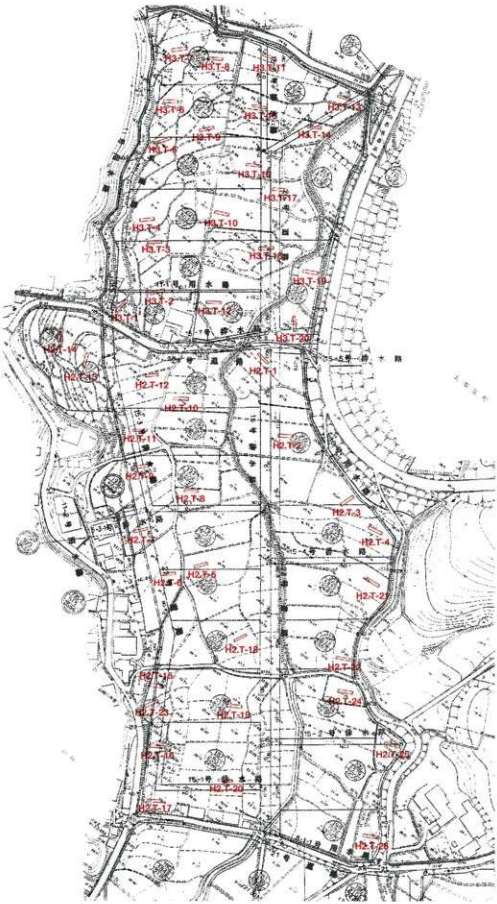


第６図　昭和62年度調査箇所



第7図　平成元年度調査箇所

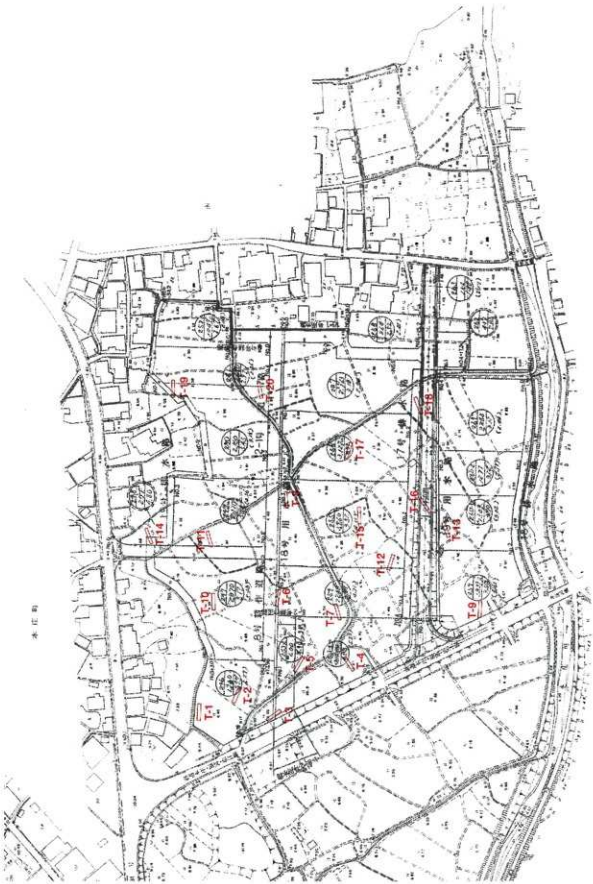
第８図　平成元、８年度調査箇所




第９図　平成２、３年度調査箇所

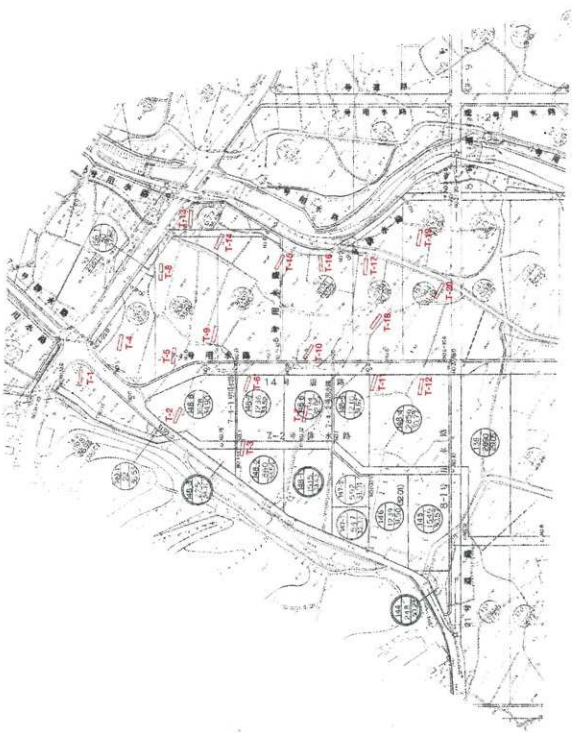
第10図　平成３年度調査箇所（１）

第11図　平成３年度調査箇所（Ⅱ）

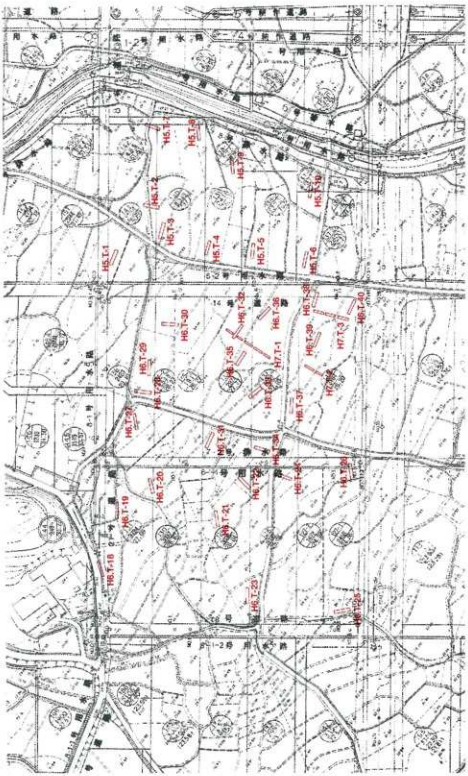



第12図　平成４年度調査箇所（１）

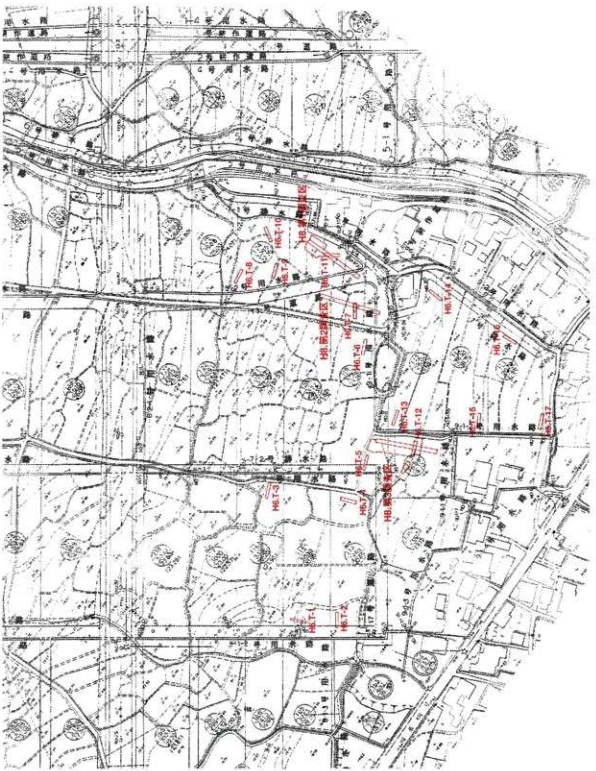
第13図　平成４年度調査箇所（Ⅱ）



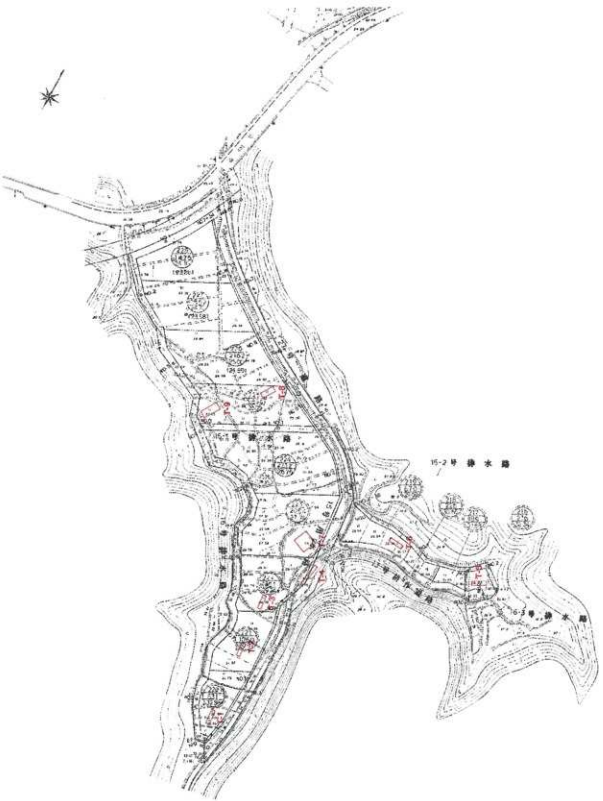
第14図　平成５年度調査箇所



第15図　平成５、６、７年度調査箇所



第16図　平成６、８年度調査箇所




第17図　平成９年度調査箇所

# Ⅲ．各年度の調査報告

昭和61（1986）年度

現地調査期間……昭和61年11月４日～12月10日

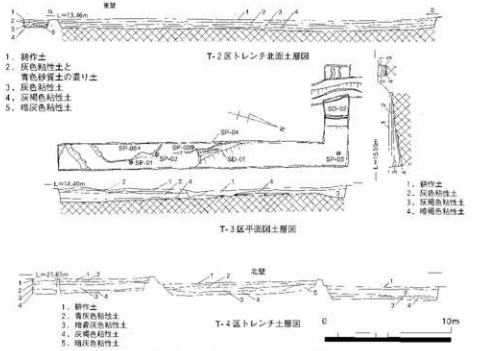
調査箇所……松江市上本庄町335番地外

昭和61年度の試掘調査ではＴ－１～６区までの計６本のトレンチを調査したが、これらのトレンチは遺構の現存する可能性を考え、東西方向に走る舌状丘陵の丘陵上に１本、北傾斜面に３本をそれぞれ設定した。４本のトレンチ中で遺構を確認したのはＴ－３区のみで、丘陵の平坦面の中央部にＴ－５区を設定したところ住居跡らしい落ち込みの一部を検出したので全体のプランを明らかにするため調査区を拡張して、竪穴式住居跡１棟の存在を確認した。

Ｔ－１区完掘状況

また、Ｔ－５区で検出した遺構は竪穴式住居跡１棟だけでなく、多数の杭穴や溝状の遺構もあった。近年の耕作により削平または撹乱されることなく丘陵上に遺構が現存するかを確認するため、Ｔ－６区を設定し調査を実施した。その結果、Ｔ－６区からは３条の溝及び杜穴数穴を検出し、遺構が丘陵の全体に広がることが判明した。

Ｔ－１区は東西方向に走る舌状丘陵の東端に設定した30×２ｍのトレンチである。本トレンチは上下２枚の用に分かれ高低差は80cmを測る。いずれも耕作土を排除すると黄色粘質土の地山に達した。



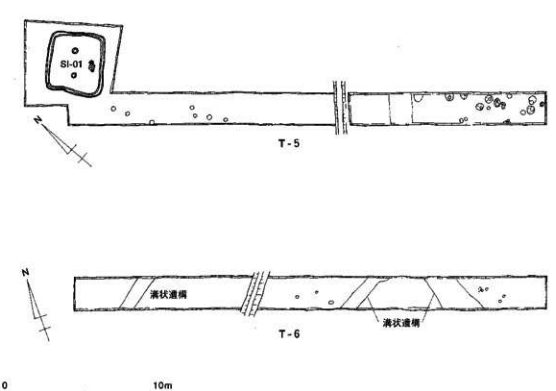

第18図　Ｔ－２、３、４調査成果図

地山上には70cm間隔で東西に走る７条の小溝及び南北の方向で20cm間隔の小溝を２条検出したが、小溝中の埋土はいずれも耕作土と同色同質の灰褐色粘質土であったので、田として耕作する以前の桑畑の畝であることが判明した。他に遺構は検出できなかった。遺物は須恵器甕片１と内面底部に灰釉の付着した壺型の須恵器の底部片２が地山直上に密着した状態で出土した。

Ｔ－２区はＴ－１区の北東約40m、舌状丘陵の東端斜面中に設定した30×２mのトレンチである。耕作土上面から70～80cmで黄褐色粘質土の地山面に至る。トレンチ東壁で４層に分かれるが、第１層は耕作土で厚さ20cmを測る。第２層は灰色粘質土と黄色砂質土の混入土で厚さ20cmを測る。第３層は灰色粘質土で第１層の耕作土と同質である。厚さは10～15cmを測る。第２層と３層の間にはビニール製のものが見つかったことから、第３層は旧耕作土と考えられる。第４層は灰褐色粘質土で、厚さ20cmを測る。遺物は３個体出土した。

３は第３層旧耕作土中より出土した陶器の高台付碗の底部である。高台高は７cm、径は5.4cmを測る。外面には高台基部から１cm上方より淡緑色釉が施釉され、内面は残存部全体に施釉されている。時期は江戸時代以降と考えられる。４は地山面より出土した壺型土器の肩部である。内面は平行ナデ調整を施し、灰色を呈する外面は灰釉を被り断面は淡赤紫色を呈する。５は地山面より12cm上の第４層中より出土した備前系すり鉢の口縁部である。幅広の縁帯を持ち、垂直に立ちあがり、下部は下に垂れ下がっている。内外面は平行ナデ調整を施し、内面は暗灰色、外面は灰色、断面は赤紫色及び灰色を呈する。時期は16世紀前後と思われる。

Ｔ－３区はＴ－２区の北側約45m、舌状丘陵の北側斜面中にＬ字状に設定した30×２mのトレンチ

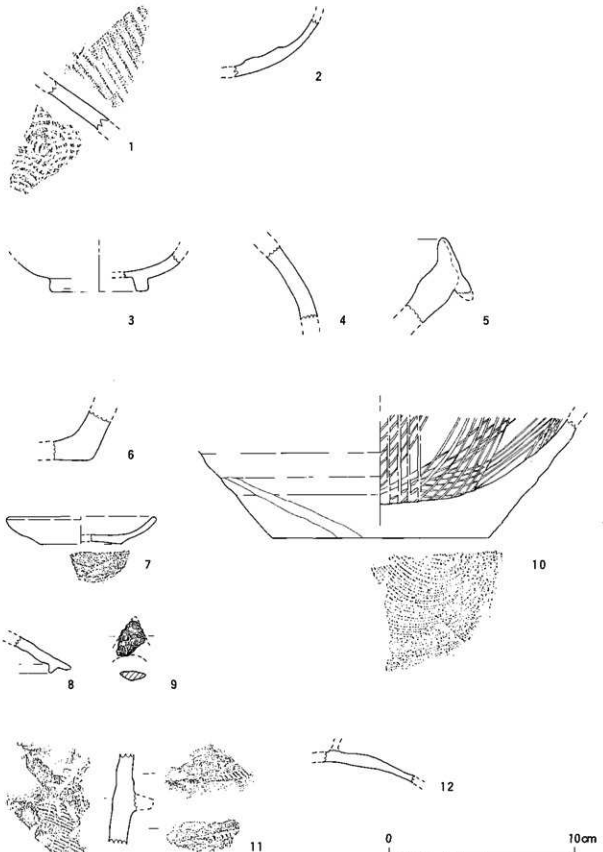



第19図　Ｔ－５、６調査成果図

である。表土面から45～100cmで、黄褐色粘質土の地山面に達する。層は4層に分かれ、第1層は灰色の耕作土で厚さ15cmを測る。第2層は灰色粘質土で、厚さは15～30cmを測る。第3層は灰褐色粘質土で厚さ20～80cmを測る。第4層は暗灰色粘質土で厚さ10～30cmを測る。遺構は小溝3条と柱穴6穴を検出したが、小溝2条（ＳＤ－02・03）、柱穴1（ＳＰ06）は第2層を埋土に持つ新しい遺構だった。しかし、ＳＰ02～05、ＳＤ－01は第4層と黄褐色土との混入土を埋土に持つ遺構で、比較的に古いものと思われる。ＳＰ01～04はいずれも直径30cm前後の柱穴で、深さは12～22cmを測る。また、これらの柱穴は不定間隔（1.2～2.8m）ではぼ直線上に並ぶ。ＳＰ05は直径10cmの柱痕跡を残し、深さは27cmを測る。ＳＤ　01は上端幅20cm、下端幅12cm、深さ7cmを測る。これらの柱穴や小溝が互いに関連を持つか、関連するとすればどのような全体像を構成するのかは本トレンチが狭小な体耕地に存在し、上下の畑とは80cm以上の高低差を有していたので拡張することができず、遺構の全体像を確認するには至らなかった。遺構の時期についても地山直上で出土した遺物や柱穴中の遺物が無かったので、確定することができなかった。遺物は様々な時期のものが出土している。6は表土から25cm下、第2層中より出土した備前系すり鉢の底部である。内面は灰釉を被り灰色を呈する。外面は濃茶色で光沢を持つ。断面は中心が淡紫色で外面は灰色を呈し、1～2㎜の砂粒を若干含むものである。7は表土から34cm下、第2層中より出土した土師質土器である。底部は回転糸切りで切り離し、他は内外面共に平行ナデ調整を施す。色調は内外面共に黒褐色で光沢がある。断面は明褐色及び灰褐色である。8は表土下約10cm、第1層中より出土した須恵器壺の口縁端部である。内外面共に回転ナデ調整を施すものである。9は表土下約20cmより出土した黒曜石石鏃未製品である。10は表土下約20～30cmより出土した唐津すり鉢である。底部外面は回転糸切り手法で切り離し、体部内外面共に回転ナデ調整を施すもので、底部外面と体部との境から体部斜め方向へ指痕を残す。江戸時代頃のものと思われる。

Ｔ－4区はＴ－3区北西150m舌状丘陵と枕木山山麓の接点付近に設定した30×2mのトレンチである。耕作土上面から90～120cmを掘ったが、地山面を確認することはできなかった。トレンチ北壁で第5層に分かれるが、第1層は灰色粘質の耕作土で厚さ20～25cmを測る。第2層は青灰色粘質土で厚さ10～50cmを測る。第3層は暗青灰色粘質土で厚さ10～50cmを測る。第4層は暗褐色粘質土で厚さ10～30cmを測る。第5層は赤褐色粘質土で厚さ50cmを測る。遺物は数片出土した。11は耕作土上面より50cm程下、第3層中より出土した。須恵質円筒埴輪基部上部の一段だけの部分である。残存部中央外面に凸帯を有す。外面はハケメ調整、凸帯付近は貼付けのためヨコナデを施す。内面は斜め方向のハケメ調整である。後期古墳に関するものと思われる。12は耕作土上面より30cm程下、第2層中より出土した須恵器蓋坏の蓋の一部である。天井部中央に輪状のつまみを有するもので、調整は外面回転ナデ、内面不整方向のナデを施す。遺物は他に最下層から磁器の碗の小片及びプラスチック片などもあり、層序が時代差を示していない。永年の耕作による影響が強いものと思われる。

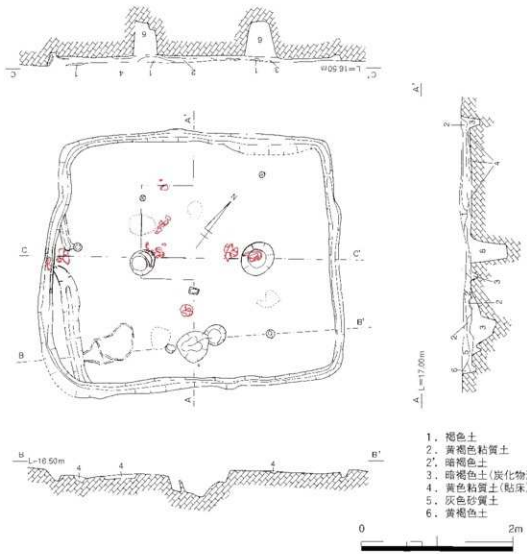
Ｔ－5区はＴ－3区の南西方向40mの舌状丘陵上平坦面に設定した30×2mのトレンチである。竪穴式住居跡1棟を検出したので、調査面積を拡張した。この調査区では竪穴式住居跡（ＳＩ－01）1棟と柱穴25穴、溝1条を検出した。




第20図　昭和61年度出土遺物実測図

S I −01

S I −01は平面隅丸方形で、主軸はN−54.5°−Eである。床面の規模は北東軸で3.88m、北西軸で3.4mを測る。壁高は西壁で最大値18cm、北壁で最大値26cm、東壁で最大値11cm、南壁で最大値19cmを測る。周囲の壁溝いには幅10～14cmのU字溝が掘り込まれており、床面は1段でほぼ水平に整えられている。主柱穴は2本（P1、P2）を確認した。P1は東西径32cm、南北径34cm、深さ45cm、柱痕跡径20cmを測る。P2は東西径43cm、南北径44cm、深さ46cm、柱痕跡径25cmを測る。P1、2の埋土は柱痕跡が暗茶褐色土で比較的軟質、柱痕跡の周囲の土は黄褐色粘質土のかなり硬い土である。



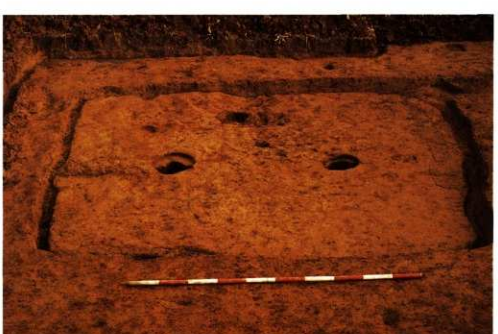

第21図　S I −01実測図

他に小規模な柱穴5本（P5～P9）及びP1、P2とはぼ正三角形を構成する位置にP3、SI－01検出面から既に埋上上に確認された竪穴式住居跡と無関係の直径28cm、深さ25cmのP4の計9本がSI－01中より検出された。P5～P8は位置的に補助柱穴に成り得るかは疑問がある。P3は長楕円形のプランで南北径60cm、東西径43cm、深さ30cmを測る。底部付近には厚さ2～3cmの炭が直径10cmの略円形状に検出され、炭上には土師器片が出土している。

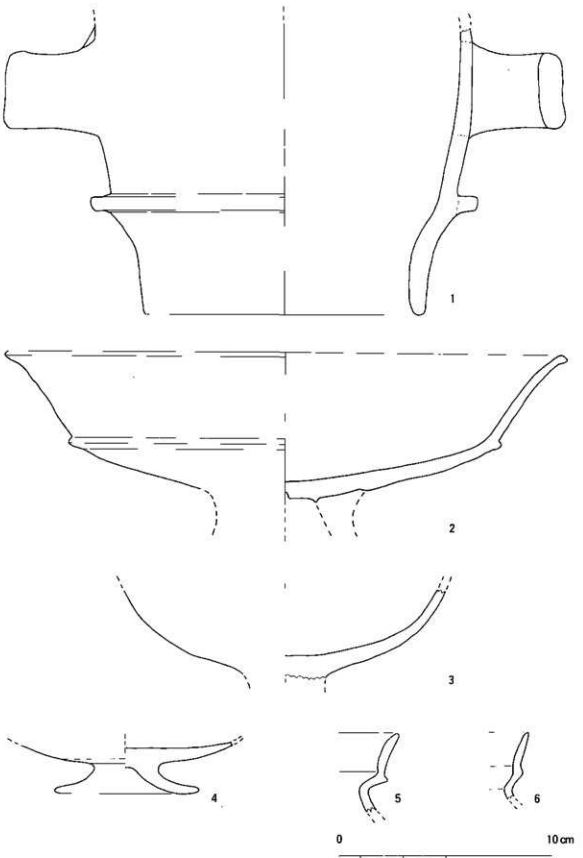
焼土は3ヶ所で検出された。焼土1は最大厚さ1cmで、径26cm貼床面上に、焼土2はP2～P8間にあり、最大厚さ5cm、最大幅32cm、焼土3は最大厚さ1cmで径20cmを測り、貼床面より僅かに上面で検出された。炭は住居跡中央に幅広く存在したが、最大の炭は長さ10cm、幅25cm程で、それより大きいものは無かった。他には偏平な石が東西北隅に配してあり、一部浮いたものもあったが、2個は貼床面上にあり、なんらかの用途で使用したものと考えられる。貼床は約1～3cmあるが、一様に貼ったのではなく、部分的に貼り、残りの床面は地山面を水平に整え利用したものと考えられる。貼床を除去するとさらに下に溝があり、最大上端幅24cm、同下端幅7cm、同深さ7cmを測る。貼床除去後の遺構と貼床上の遺構の時期差については、貼床下の小溝の埋上が貼床と同質であること、小溝中や貼床下に遺物も炭も確認できないこと、さらに貼床が床面全体にわたっていないことなどから貼床下の溝の検出面で生活した期間は非常に短いか、あるいは全く無いかのどちらかではないかと考えられる。しかし、貼床下の溝と床上の溝との関連で考えると、床下の溝を利用したほうがプラン的には方形に近い。以上のことから最初は貼床下の溝がこの住居跡の本来は周溝の一部だったが、建造中あるいは建造後、南側部分を拡張するなんらかの理由が生じたため南側を少し膨らませたような住居に造りかえたのではないかと推測する。SI－01の時期について判断できる遺物として3個体出上している。1は浅い脚部に大きく広がる坏部を持つ。5、6は複合口縁のしっかりした甕片である。これらの形態的特徴や前述した手法の特徴などを総合して考えると、SI　01は小谷並行期と考えられる。

出土した遺物については図化できるものは6個体あった。1は床面より約5cm上面、P2付近より出土した甑型土器の底部付近である。底部径は13.3cm、残存高は13.9cm、底部より5cmのところに貼り付けた凸帯がある。凸帯より2.8cm上に横把手を対で接合する。接合は体部を穿孔した後挿入、貼付けした挿入法による。摩滅のため調整は不明である。色調は内外面共に黄白色、断面は中心が黒色、側面は黄白色を呈する。胎土は密で1mm以下の白色粒を含んでいる。他に底部外面から把手付近まで煤が付着する。この甑型土器は底部付近しか残存していないため上下2対の把手になるか、底部一対のみか不明であるが、底部一対横把手で凸帯を有するものは本遺跡周辺では平所遺跡や東山雲中学校庭遺跡にその出上例があり、さらに青木遺跡や長瀬高浜遺跡でもその出上例がある。また、上下2対で凸帯を有するものは青木、秋里、丸山、長瀬高浜遺跡にその出土例がある。2は西側周溝中及び貼床上に密着して出上した椀を持つ高坏の坏部である。口径は26cm、坏部高は6.5cmを測る。口縁部と底部の接合部は境に丸みを帯びた稜をもつ。口縁部は外弯した後、緩やかに内弯し、さらに外反しながら外面に開く。端部は断面三角形を呈する。調整は底部外面に縦方向のハケメ、稜付近はヨコナデ、稜付近から口縁部にかけてはタテ方向のヘラミガキを施す。内面は底部と口縁部との接合部はヨコナ

ＳＩ－01内土層堆積状況



ＳＩ－01完掘状況




第22図　ＳＩ－01出土遺物実測図

テ、脚部を接合したと見られる箇所は直径6㎝にわたり指圧痕が見られる。3は貼床ではない床面に密着し、坏部をふせた状態で出土した高坏の坏部である。摩滅が著しいため、調整は不明である。色調は内面赤黄色、外面、断面共に黄色を呈する。胎土は密で0.5～1.5㎜程度の白色砂粒を含む。4は床面2層上より出土した低脚坏である。口縁部と脚部の一部を欠損している。残存する坏部の底部は平底である。脚部高は1.5㎝、径は6.8㎝である。調整は摩滅が著しいため不明であるが、脚部と坏部は貼付けによるものと思われる。色調は内面黄褐色、外面赤黄褐色、断面は中心が有炭色で他は茶褐色を呈する。胎土には0.5～2㎜の白色砂粒を含む。5、6は床面2層上より出土した甕の口縁部である。2片共に小片であるが、同一個所から出土した。複合口縁を持つことから、5は内外面にヨコナデ調整を施す。6の調整は不明である。5は内外面共に黄褐色、断面明黄褐色を呈する。6の断面は明黄褐色である。胎土は5、6共に密で、いずれも0.2～0.5㎜の白色砂粒を含む。

T－5区柱穴検出状況

その他の遺構に柱穴25穴、溝1条がT－5区から検出された。柱穴については直径50㎝近くあるものも多数あり、その中には直径20㎝前後の柱痕跡を持つものもあった。いずれの埋土も暗赤褐色土で、炭化物及び調査区中央部には土師質の土器粒を含んでいる。トレンチを横切るようにして南北方向に幅14mの溝が走っている。この溝の埋土は灰褐色土で赤褐色粘質土のブロックを含むものである。

T－6区溝状遺構及び柱穴完掘状況

T－6区はT－5区の北西15m、舌状丘陵の中央部に設定した30×2mのトレンチである。厚さ20㎝の耕作土を除去すると、黄褐色粘質土の地山に至る。地山上には柱穴8穴と3条の溝を検出した。柱穴は最大径30㎝、最小径12㎝までの小型のもので、埋土は暗赤褐色土で炭化物等を含み、埋土だけでみればT－5区のものと類似している。3条の溝は東側の溝が幅1.8mを測り、暗茶褐色土と黒色土の2層の埋土を持ち、埋土中に土師質土器片を含んでいる。中心の溝は幅80㎝で東側の溝と交差する方向に伸びるが、黒色土を埋土に持ち、これも埋土中に土師質土器片を含んでいる。西側の溝は幅80㎝で中心の溝と平行するように北東方向に伸びている。この埋土も黒色土で土師質土器片を含んでいる。

昭和62年度

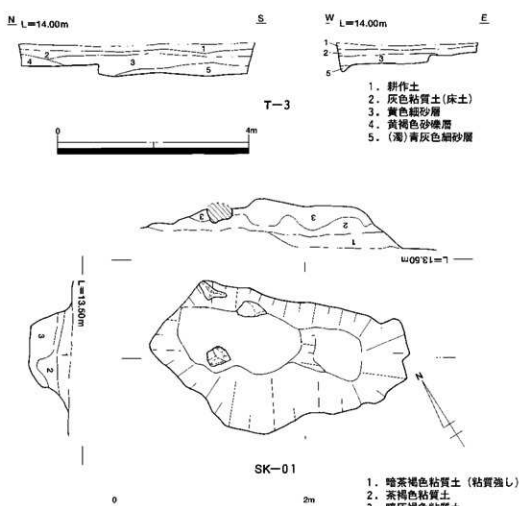
現地調査期間……昭和62年10月19日～12月14日

調査箇所……松江市上本庄町青木264番地外

低丘陵を中心とした周辺の水山地の試掘調査を昭和61年度に引き続いて実施する必要が生じたため、低丘陵の南縁部分と西側水田地を中心に16ヶ所に10×２ｍを基本としたトレンチを設定し、試掘調査を実施した。

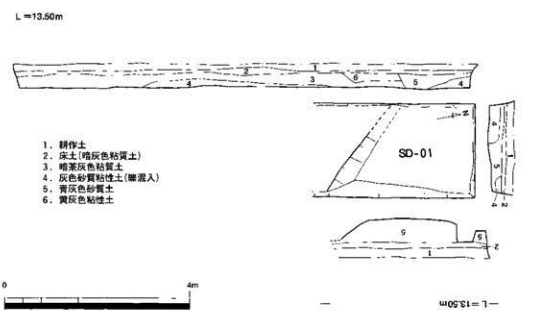
低丘陵西側水田地には９本のトレンチ（Ｔ－１・２・５が10×２ｍ、Ｔ－３・４・６・９が５×２ｍ）を、丘陵上には６本のトレンチ（Ｔ－12が10×６ｍ、Ｔ－13～15が10×２ｍ、Ｔ－16が５×２ｍ、Ｔ－17が10×４ｍ）を東側水田地には２本のトレンチ（Ｔ－10・11が10×２ｍ）を各々設定し調査を開始したが、東側水山地は以前沼地であったと推測されることや丘陵上の遺構検出に重点を置いたため、Ｔ－10については調査を実施しなかった。また、Ｔ　１・４・９・11・14～16については遺構・遺物は共に出土しなかった。

遺構を検出できたのはＴ－３・５・12・17においてであった。Ｔ－３では2.7×1.4ｍ、深さ45cmの

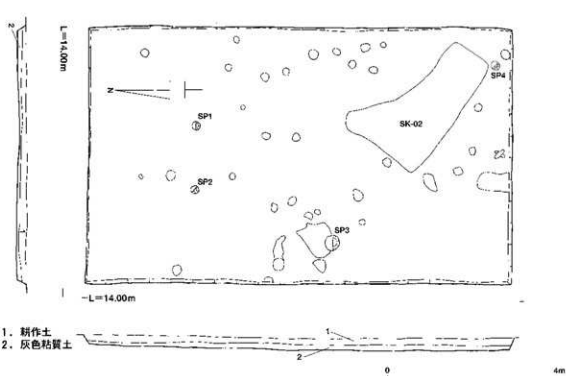



第23図　Ｔ－３土層断面図及びＳＫ－01実測図

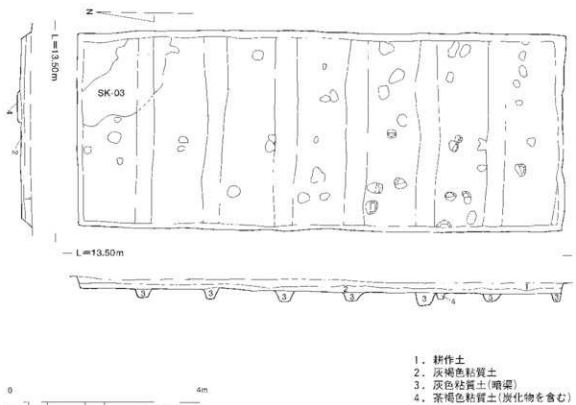
不整楕円形の土壙（ＳＫ－01）を検出した。この検出面から黒曜石片、須恵器片、土師器片が出土したが、その他は人頭大程もある転石を23個確認したに過ぎなかった。Ｔ－５では山河川と思われる溝状遺構（ＳＤ－01）の一部を検出し、その堆積土層から黒曜石片、土師器片が若干出土した。Ｔ－12の地山面では柱穴と思われる径20～30cm、深さ20cm程の柱穴を38穴検出した。また、長さ2.5×１m、深さ60cmの不整方形の土壙（ＳＫ－02）を検出したが、この土壙内から遺物は出土しなかった。




第24図　Ｔ－５調査成果図




第25図　Ｔ－12調査成果図

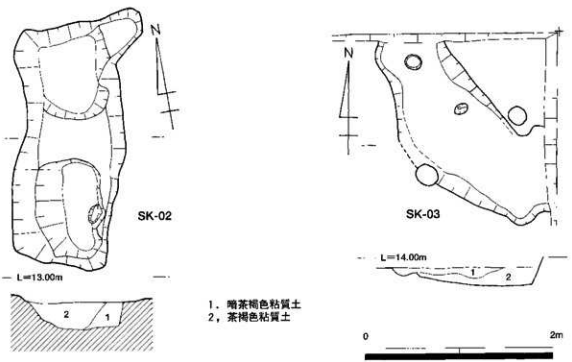



1．耕作土
2．灰褐色粘質土
3．灰色粘質土(暗渠)
4．茶褐色粘質土(炭化物を含む)

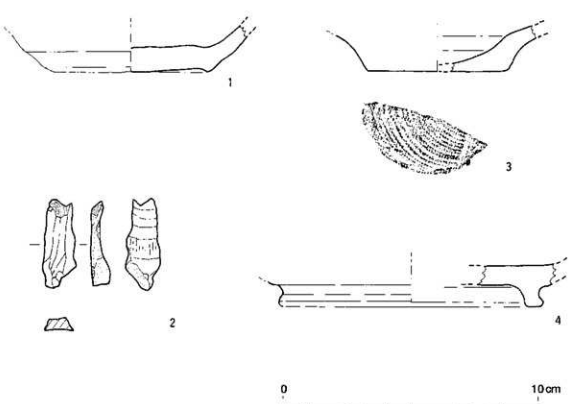
第26図Ｔ－17調査成果図

ＳＫ－01完掘状況

ＳＫ－02検出状況




第27図　ＳＫ－02、03実測図




第28図　昭和62年度出土遺物実測図

Ｔ－17の地山面ではＴ－12と同様に、柱穴と思われる径20～30cm、深さ10～20cmのものを42穴検出した。また、幅１ｍ、深さ20cm程の土壙状遺構（ＳＫ－03）を検出したが、この土壙内から遺物は出土しなかった。

また、Ｔ－２・６～８・13では、須恵器片、土師器片、土師質土器片、陶磁器片、鉄器片、埴輪片などが出土したが、その殆どが細片で摩滅していた。このことにより、これらの遺物の多くは流れ込みによるものであろう。

Ｔ－17柱穴・土壙検出状況

Ｔ－17土層堆積状況

昭和63年度の調査

現地調査期間……昭和63年10月３日～平成元年１月８日

調査箇所……松江市上本庄町字佛之後290番地外

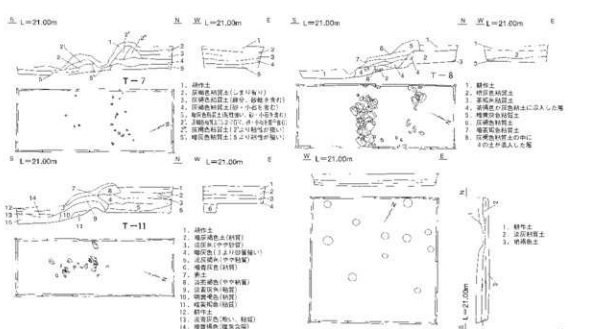
過年度の調査結果により、丘陵部分及び水田部分はさらに遺跡範囲が広がることが想定され、62年度の北側に調査区域を設定した。

丘陵西側水山については条里制遺構の確認を目標に、地形図上で古代畔が現在の畦畔として残っている可能性があると思われる箇所を対象にして、Ｔ－１・２・６～11（長さ５×２ｍ）を、また道路敷設予定地内においてＴ－３～５を設定した。丘陵部分については、基本的に４ｍ方眼のグリッド35箇所を任意に設定した。

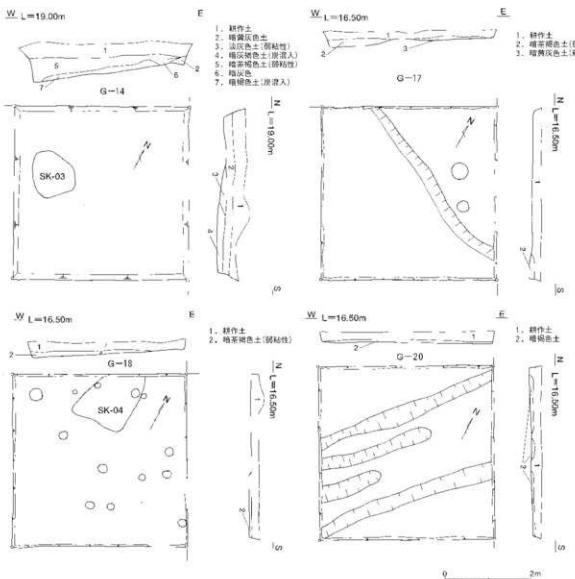
調査の結果、丘陵西側水山部分において遺構を検出したのは、Ｔ　７・８・11のみで残りの箇所では遺構は確認できなかった。水田中に設定したＴ－３～５については耕作土下に礫層があり、本庄川の氾濫箇所と考えられる。

Ｔ－７完掘状況

Ｔ－７より杭列が検出されたが、土層断面の観察から現在の畦畔を作った際のものであろうと思われる。出土遺物は陶器碗片、備前系すり鉢片、黒瓦片が出土した。Ｔ－８では東西方向の石列が検出された。これについても現在の畦畔を構築した際の土留め石と考えられる。出土遺物は第２層よりかわらけの細片が出土している。Ｔ－11でも石が見つかったが規則性はなく、地山に凹状の隆起が認められるが、古代の畦畔遺構備前系すり鉢片が出土した。そ




第29図　Ｔ－７、８、11、Ｇ－８調査成果図




第30図　G－14、17、18、20調査成果図

G－8区柱穴検出状況

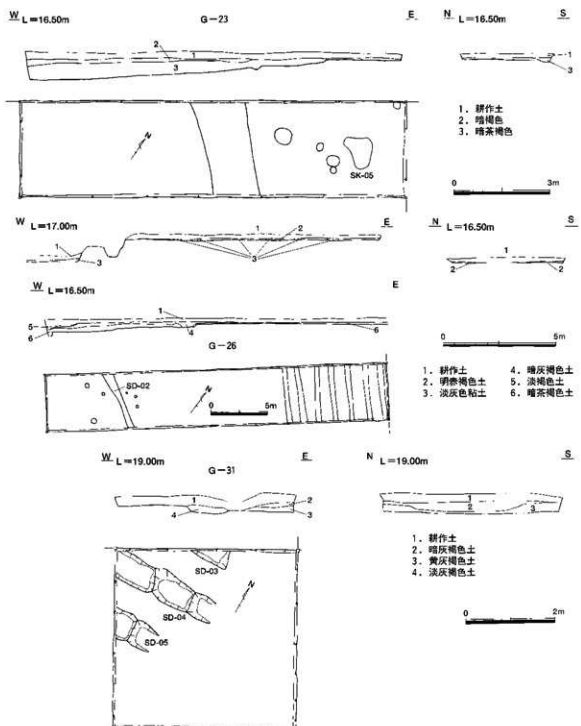
G－9区柱穴検出状況

G－10区完掘状況

G－27区完掘状況

の他には遺構が検出されなかったT－2・3・9・10からは土師器片、陶磁器類片、土錘が検出された。

丘陵部分において遺構が検出されたのは、G－8～10・12・14・17・18・20・23・26・27・30・31・34であった。




第31図　昭和63年度調査成果図（Ⅱ）

G－8からは柱穴と思われる15～25cm大のものが確認できたが、建造物の復元には至らなかった。出土遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器類片、かわらけ片、円筒埴輪片が出土した。

G－9からは柱穴と思われるものを多数検出したので、G－9と10の間に新たにG－27・30・34を設定して調査を実施した。その結果、直径15～50cm大の柱穴が53穴、土壙状遺構（SK－01）1基、溝状遺構（SD－01）が1条確認された。SD－01は北壁セクションのサブトレンチで観察した結果、深さ約5cm程度の浅いものであった。G－9で検出された柱穴群の上には暗茶褐色の薄い層が堆積しており、何らかの生活の跡と思われるが、建造物の想定はできなかった。出土遺物はG－9から須恵器、陶磁器類のそれぞれ細片が検出された。G－10・27・34からは検出されなかった。

G－12からは、土壙状遺構（SK－02）1基、柱穴と思われるものが3穴確認された。また、遺構面の東側と西側には地山加工段が見られたが、性格は不明であった。出土遺物は須恵器片、陶磁器類片が出土している。

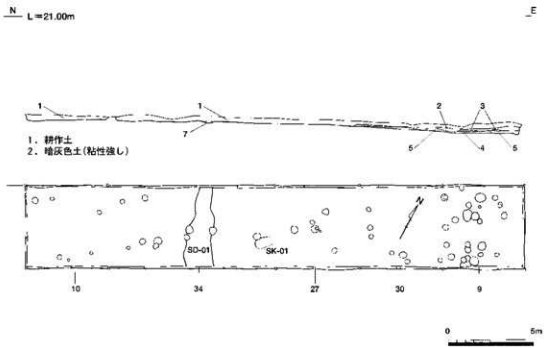
G－14からは土壙状遺構（SK－03）1基が検出された。半掘した結果、遺構に伴う遺物は見つからず、遺構の性格については不明である。G－14の掘り下げ中の出土遺物は須恵器片、陶磁器類片、備前すり鉢片、かわらけ片、埴輪片、黒瓦片、土師器片であった。

G－14完掘状況

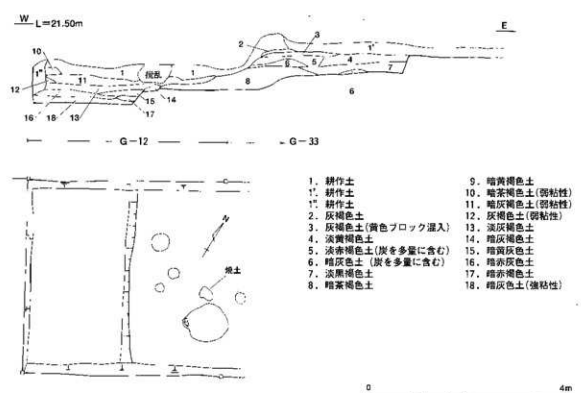
G－17完掘状況

G－18完掘状況

G－17には地山加工段が見られ、段上には柱穴が2穴検出されたが、性格については不明である。出土遺物は須恵器片、陶磁器類片、かわらけ片、円筒埴輪片、土師器片、黒瓦片である。G－18からは土壙状遺構（SK－04）と柱穴と思われるものが13穴検出された。出土遺物は陶磁器類片、土師器片、須恵器片である。




第32図　G－10、34、27、30、9調査成果図




第33図　G－12調査成果図

G－20からは東西に走る溝状遺構が検出されたが、後世の畑の畝に関連するものと考えられる。出土遺物は土師器片、須恵器片である。

G　23からは土壙状遺構（ＳＫ－05）１基と杜穴が５穴検出された。性格については不明である。また、帯状の黒い遺物包含層が検出され、かわらけ皿片が約３個体分一括して検出された。他に出土遺物は須恵器片、土師器片、かわらけ片、陶磁器類片、円筒埴輪片、土錘である。

G－26からは東側で後世の畑の畝に関連した溝状遺構７条、西側で杜穴６穴、南北に走る溝状遺構（ＳＤ－02）が検出されたが、性格は不明である。出土遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器類片である。G－31からは土壙状遺構が連結して溝状を呈する遺構（ＳＤ　03～05）が検出されたが、遺構に伴う出土遺物はなく、性格は不明である。他に掘り下げた時の出土遺物は須恵器片、陶磁器類片が検出された。

その他のトレンチ及びグリッドより遺構は検出されず、遺物については二次堆積土中からであった。

G－20区完掘状況

G－23区完掘状況

G－30区完掘状況

**昭和63年度中出土遺物について**

出土遺物は、大半が摩滅したものであり、時期を特定できるものは僅かであった。

１はＴ－２の第２層から出土した土師器の坏片である。口縁部は内弯気味の形状を呈し、端部を丸くおさめる。

２はＴ　７から出土した陶器の高台付坏である。高台部内面と坏部内面中央部を除いた部分に淡緑灰色の釉をかけるものである。高台は削り出したものである。

３はＴ－７から出土した陶器の高台付坏である。高台部内面を除いた部分に淡緑灰色の釉がかかり、坏部内面中央部に菊花様の印花文を施す。高台は削り出しである。

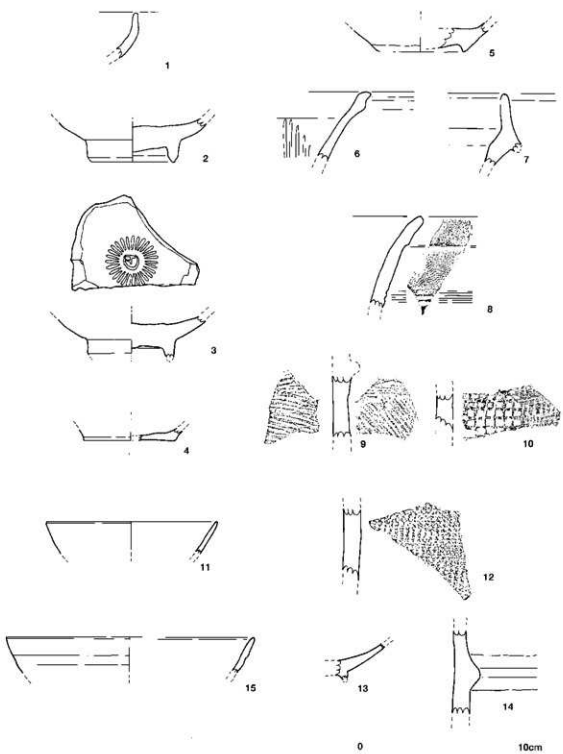
４はＴ－８の第２層から出土したかわらけ片である。底部径は5.6cmを測るものである。

５はＴ－９から出土した陶器の高台付坏である。高台下端部及び内面を除いた部分に淡緑色の釉がかかる。高台は削り出しである。

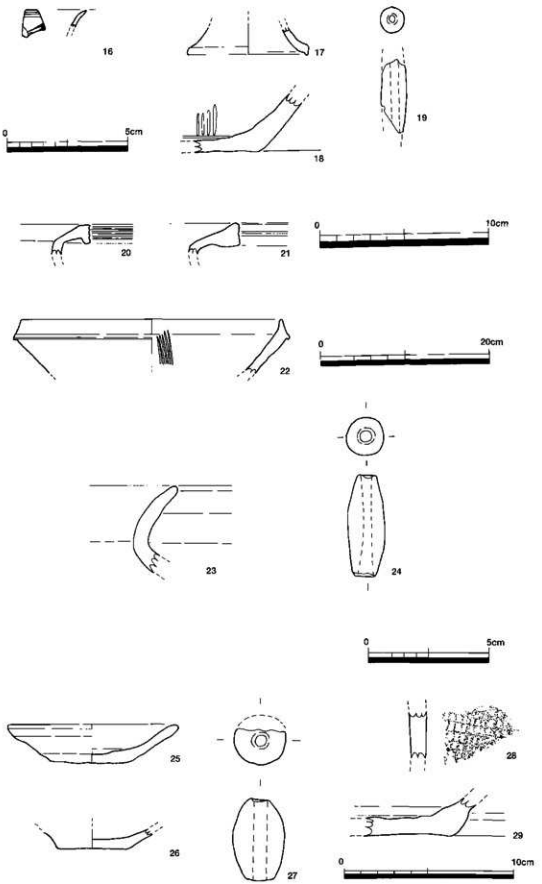
６はＴ－11から出土したすり鉢である。口縁部は端部付近で屈曲した後、外方に引き出す。溝は５条以上あるものと思われる。

7はT－11から出土した備前系のすり鉢で、口縁部は端部で上下に拡張するタイプである。

8はG－1から出土した須恵器甕の口縁部である。口縁部は外反して開いて外面に段をもち、2条の沈線と17条1単位の波状文が施されている。




第34図　昭和63年度出土遺物実測図（Ⅰ）




第35図　昭和63年度出土遺物実測図（Ⅱ）

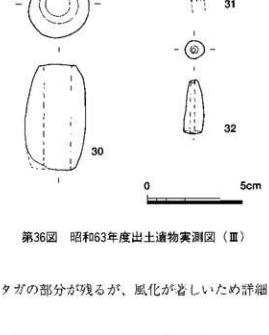
9はG－8の第3層から出土した円筒埴輪片である。径は不明であるが、内外面にハケメが残る。

10はG－8の第3層から出土した須恵質の軟質陶器片である。器形は不明で外面のみに太柄の格子状叩きが残る。色調は淡灰色である。

11はG－9の第3層から出土したかわらけ片である。推定口径は10.4cmを測る。

12はG－12の第3層から出土した須恵器片である。器形は不明であるが、外面に叩きの痕跡が認められる。

13はG　14の第2層から出土した磁器の皿である。内面中央部及び高台部を除く部分に白色の釉がかかる。



第36図　昭和63年度出土遺物実測図（Ⅲ）

14はG－14の第2層から出土した円筒埴輪片である。タガの部分が残るが、風化が著しいため詳細は不明である。

15はG－17の第2層から出土した須恵器の坏片である。推定口径は15.2cmを測るものである。

16はG　18の耕作土中から出土した染付の破片である。器厚はうすく口縁部は外反する。外面に淡藍色の文様が描かれている。

17はG－21の第1層から出土した須恵器の高坏脚部片である。ハの字に開く脚部で、端部で加曲して下方に下る。底部径は6.8cmを測る。

18はG　21の第1層から出土した備前系すり鉢の底部片で、溝は4条以上あるものと思われる。

19はG－21の第1層から出土した土師質の土錘で現存長3.0cm、穴の径は3㎜を測るものである。

20はG　22から出土した弥生式土器片の口縁部である。口縁部は大きく外反した後端部で下方に拡張し、外面に3条の沈線を施すものである。

21はG　22から出土した弥生式土器片の口縁部である。口縁部は大きく外反した後、端部で肥厚する。風化のため不明であるが、端面には1条以上の沈線を施すものと思われる。

22はG－22の第1層から出土した備前系すり鉢である。推定口径は30.4cmを測る。体部はやや内湾気味に開き、端部で上内方及び下外方に拡張される。溝は5条施されている。

23はG－22の第1層から出土した須恵器片である。口縁は外反して開き、端部は丸くおさめる。

24はG－22の第1層から出土した土師質の土錘である。現存長3.6cm、穴の径は役2.5mmを測る。

25はG－23の第2層上面から一括して出土したかわらけ片である。推定口径は9.7cm、器高2.3cmを測り、底部から直線的に伸びて口縁部に至る。底部には薄く糸切りの痕跡が見られる。

26も25と同様一括でで出土したかわらけ片の一つであり、25と同様の形態をとるものと思われる。

27はG－23から出土した土師質の土錘である。全長3.5cm、穴の径は5㎜を測る。外面に一部すすが付着する。

28はG－26から出土した須恵質土器の破片である。色調は暗灰色で広く焼きしまっているが、外面格子状叩きの特徴から10と同種類のものと思われる。

29はG－31の第２層から出土した中世須恵器の壷の底部である。底部外面はヘラで調整された痕跡が見られる。

30～32は的場丘陵上で表採された遺物である。

30は須恵質の土錘である。全長5.6cm、穴の径は1.3cmを測る。

31は須恵質の土器片で器形は不明である。外面には断面三角形を呈する突帯が貼り付けてある。

32は土師質の土錘である。全長2.9cm、穴の径は２mmを測る。下端部は偏平に仕上げられている。

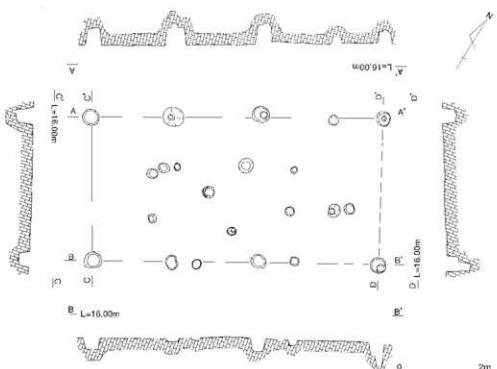
平成元（1989）年度

現地調査期間……平成元年４月17日～平成２年２月16日

調査箇所……松江市上本庄町337番地外

平成元年度の調査では、的場丘陵南半分の全面発掘調査及び、丘陵北側部分に10本のトレンチによる試掘、圃場整備工事にかかる３工区部分では30本のトレンチによる試掘調査、平成２年度調査予定の10工区部分について、４本のトレンチにより試掘調査を実施した。

その結果、的場丘陵からは11棟の掘立柱建物跡、土壙墓１、性格不明の土壙６、井戸１、溝状遺構２、小鍛冶跡１、弥生時代の竪穴式住居跡１、古墳２、建物の復元はできなかったが、柱穴と思われるものを多数検出した。




第37図　ＳＢ－01実測図

ＳＢ－01完掘状況

第38図　的場丘陵調査成果図

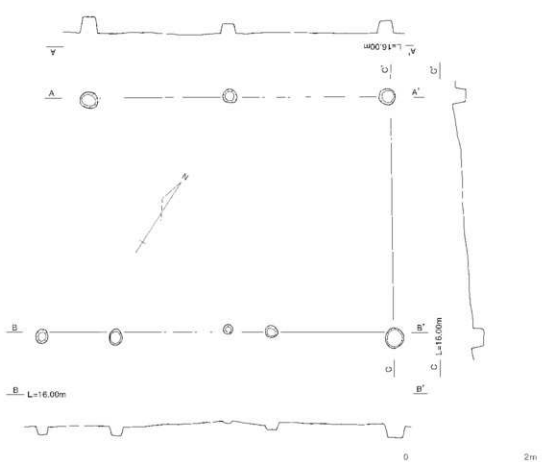
ＳＩ－01及び掘立柱建物跡群完掘状況

掘立柱建物跡（ＳＢ－01～11）

的場丘陵から検出された柱穴によって11棟の掘立柱建物跡（ＳＢ－01～11）が復元された。東西に横長の建物が殆どで重複して復元できるため長い期間にわたって生活が営まれていたことが判明した。

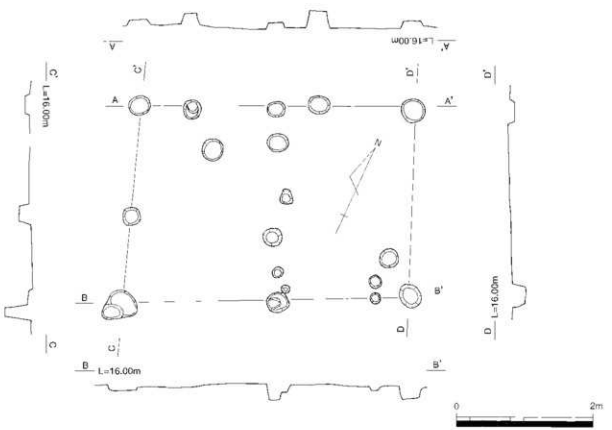
的場丘陵南側掘立柱建物群完掘状況

ＳＢ－01は東西長7.0m、南北長3.6m、ＳＢ－02は東西長6.0m、南北長4.0m、ＳＢ－03は東西長4.3m、南北長2.9m、ＳＢ－04は東西長5.0m、南北長4.0m、ＳＢ－05は東西長2.0m、南北長6.0m、ＳＢ－06は東西長5.2m、南北長4.2m、ＳＢ－07は東西長6.8m、南北長5.0m、ＳＢ－08は東西長1.24m、南北長5.2m、ＳＢ－09は東西長8.0m、南北長2.4m、ＳＢ－10は東西長6.2m、南北長3.2m、ＳＢ－11は東西長4.0m、南北長4.0mをそれぞれ測る。この建物がどのように使用されたかは不明だが、ＳＢ－04と11は総柱



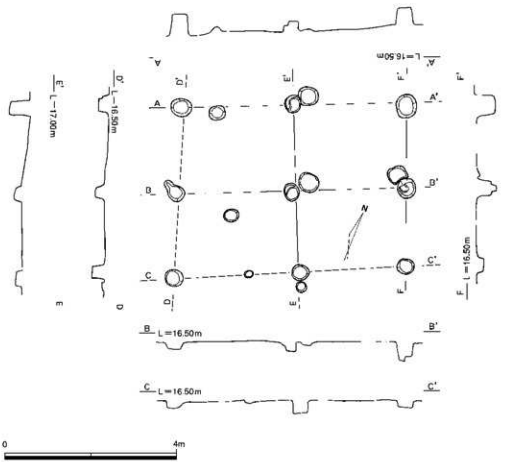

第39図　ＳＢ－02実測図

造りの建物なので、倉庫として利用された可能性がある。この建物群は、周辺から採集された土器から推定すると中～近世の建物群であると考えられます。また、ＳＢ－08の柱穴からは幌が検出された。

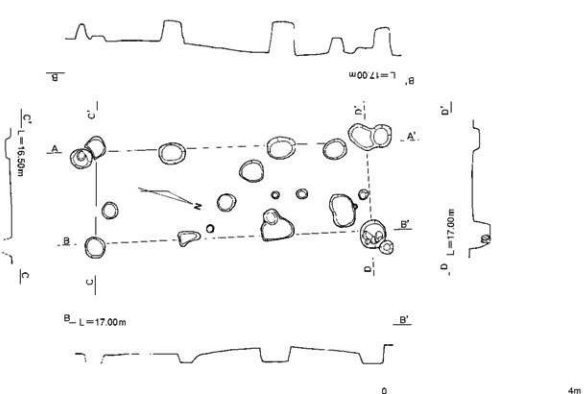



第40図　ＳＢ－03実測図

ＳＫ－05及び掘立柱建物完掘状況

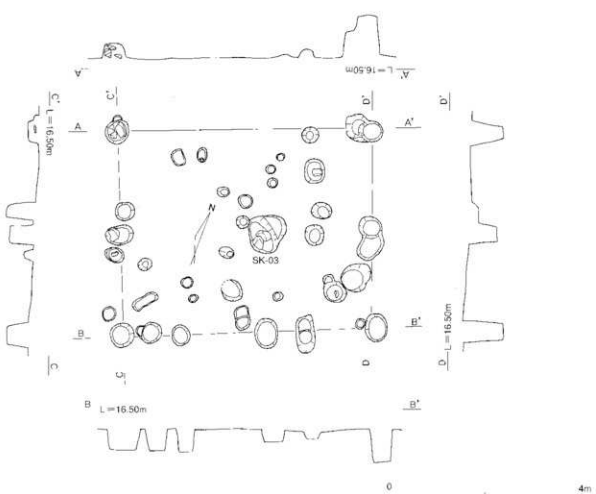



第41図　ＳＢ－04実測図

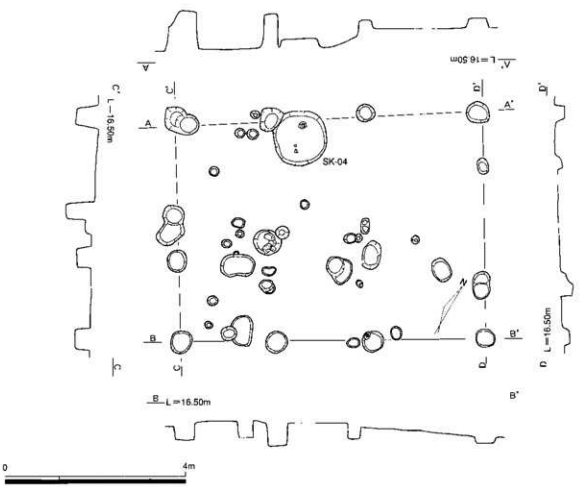



第42図　ＳＢ－05実測図

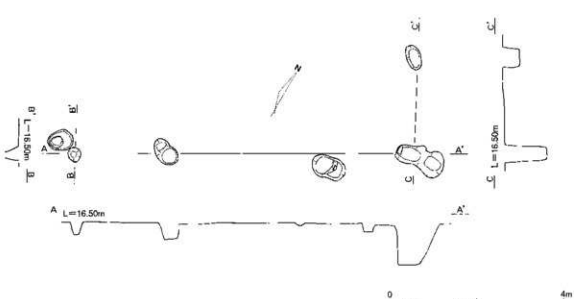
ＳＥ－01及びＳＢ－08完掘状況




第43図　ＳＢ－06実測図

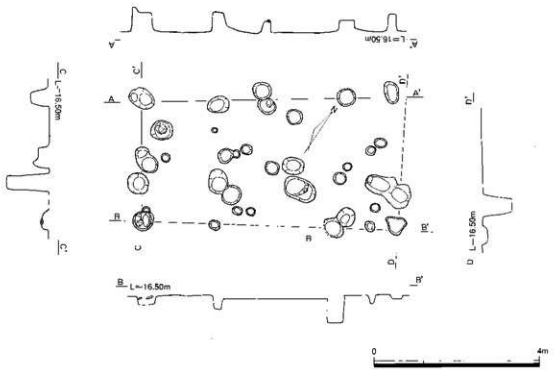



第44図　ＳＢ－07実測図

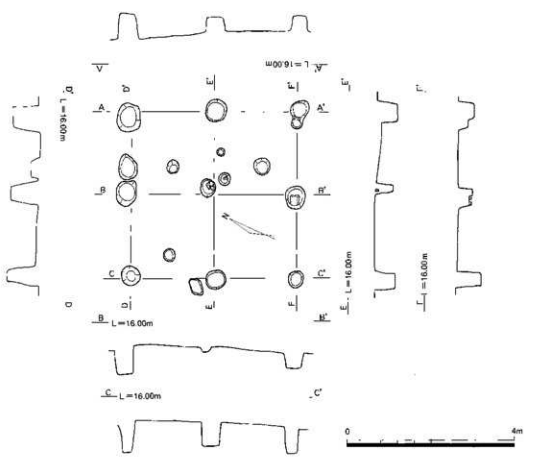



第45図　ＳＢ－09実測図

第46図　ＳＢ－08実測図




第47図　ＳＢ－10実測図




第48図　ＳＢ－11実測図

ＳＫ－01完掘状況

土壙墓について

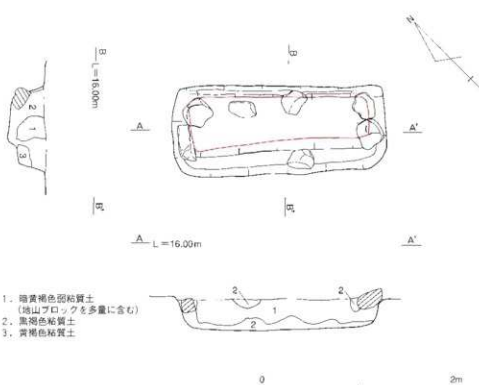
ＳＫ－01は長さ2.1m、幅85cm、深さ32cmを測る。平面は隅丸方形で、墓壙内には人頭大の石が７個置かれており、中に入れた木棺を固定するための石であったと考えられる。出土遺物としては土師質土器片がある。

ＳＫ－02は長さ1.6m、幅1.05m、深さ32cmを測る。平面は不整な長方形を呈し、底に転石を若干含む。

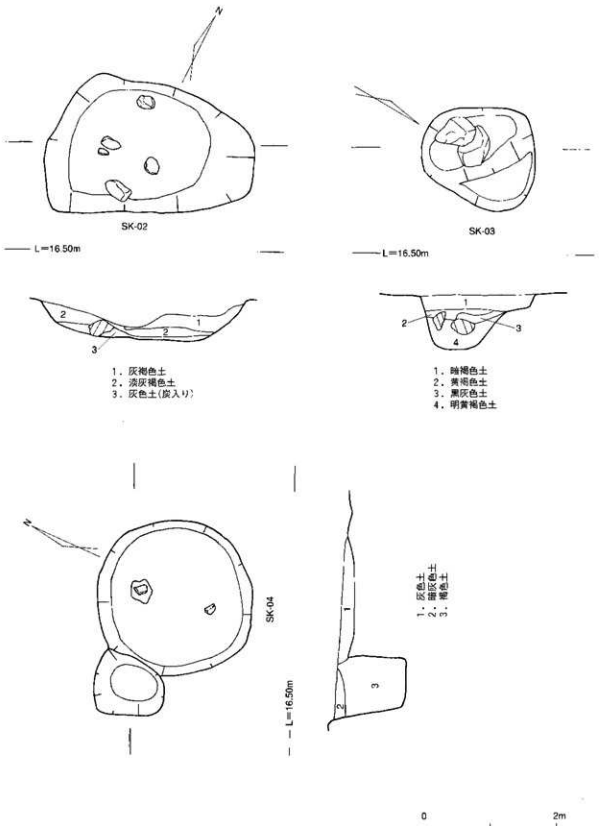
ＳＫ－03は直径85cm、深さ46cmを測る。平面は円形で墓壙内で礫を２個検出した。

ＳＫ－04は直径1.15m、深さ10cmを測る。平面は円形で墓壙内で礫を１個検出した。

ＳＫ－05は長辺3.5m、短辺2.5m、深さ15cmを測る。平面は隅丸方形を呈し、柱穴５穴を含む。蛤刃石斧１片が出土している。




第49図　ＳＫ－01実測図



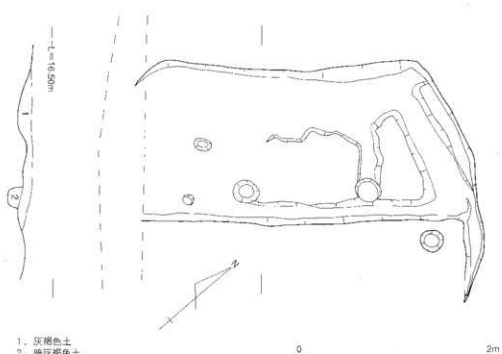

第50図　ＳＫ－02、03、04実測図

ＳＫ－04内土層堆積状況

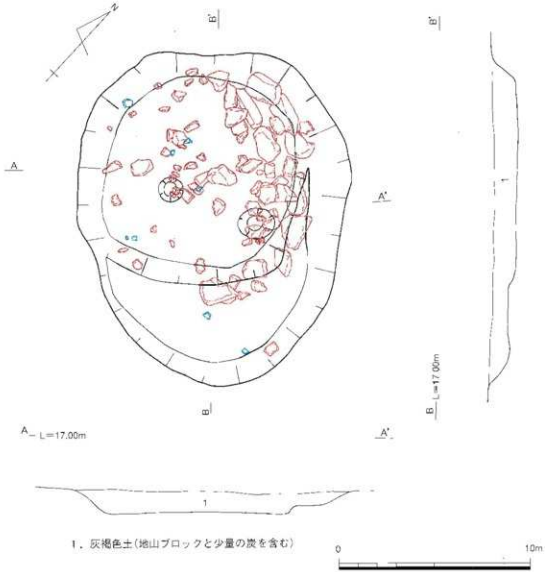
ＳＫ－05内土層堆積状況

ＳＫ－06は長辺3.5m、短辺2.8m、深さ25cmを測る。平面は楕円形を呈し、墓壙内に多量の礫を含む。須恵器片、土師器片、陶器片が遺物として出土している。

ＳＫ－07は長辺1.8m、短辺1.25m、深さ１mを測る。平面は隅丸方形を呈し、墓壙内底の部分より鋤状木製品１、土師質土器２片が出土している。




第51図　ＳＫ－05実測図



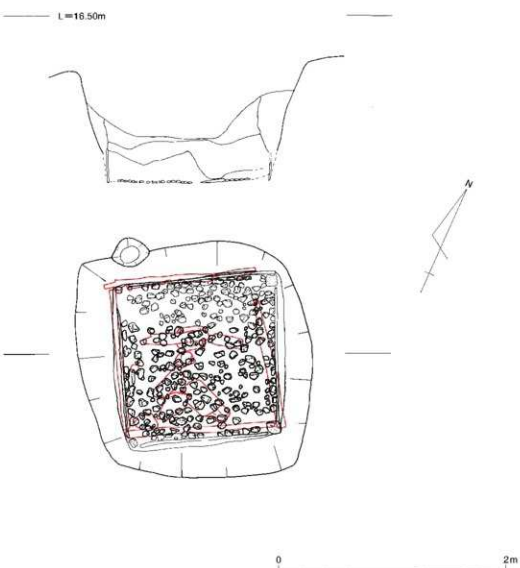

第52図　ＳＫ－06実測図

ＳＫ－06内土層堆積状況

井戸（ＳＥ－01）について

ＳＢ－08の西側では井戸（ＳＥ－01）が１基検出された。規模は東西2.2m、南北2.1mのほぼ正方形で深さは約１ｍを測る。井戸内には板材を組んだ井戸枠が２段残り、底には３～５cmの小石が一面に敷き詰められていた。敷石の上からは内面を赤、外面を黒く塗った漆椀が検出された。井戸の使われた時期については、調査中に備前焼や常滑焼などの陶器の破片が検出されており、中世のものと推定され、近くの掘立柱建物跡群が存在した時期に使用されたものと考えられる。

ＳＥ－01底部検出状況




第53図　ＳＥ－01実測図

敷石溝状遺構（ＳＤ―01・02）について

的場丘陵東側では溝状遺構（ＳＤ－01・02）が２条検出された。ＳＤ－01は長さ17.7m、上幅0.72～2.2m、下幅約20cm、深さ0.6～1.4m、ＳＤ－02は長さ8.8m、上幅22～25cm、深さ11～67cmを測り、共に溝底に３～５cmの小礫を敷いている。排水用の溝と考えられるが、時期については不明である。

ＳＤ－01完掘状況

ＳＤ－01、02底部検出状況

小鍛冶跡土層堆積状況

小鍛冶跡について

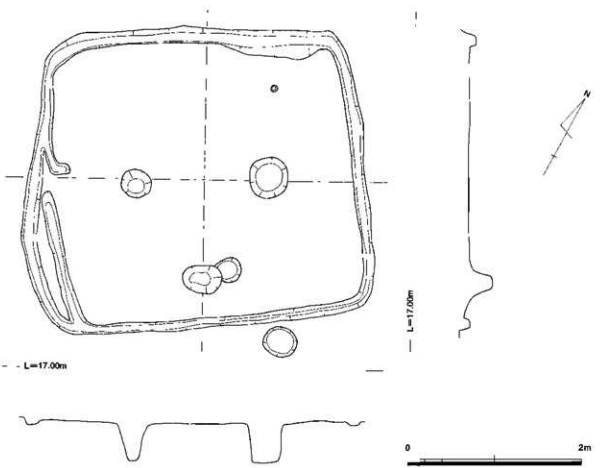
的場丘陵の東側では東西４m、南北３mの範囲で鉄が溶解した塊（鍛冶滓）と炭を多量に含んだ焼土が検出され、更に焼土を取り除くと下から長径75cm、短径60cmの炉跡が見つかり、鍛冶遺跡であることが判明した。更に付近の柱穴からはフイゴの羽口が４個検出され、いずれも先端が熱で溶けているため、使用済みの羽口を投棄したことがわかった。調査中に検出された青磁碗片、備前焼すり鉢片などから中世の小鍛冶跡であると考えられる。

竪穴式住居跡（ＳＩ－01・02）について

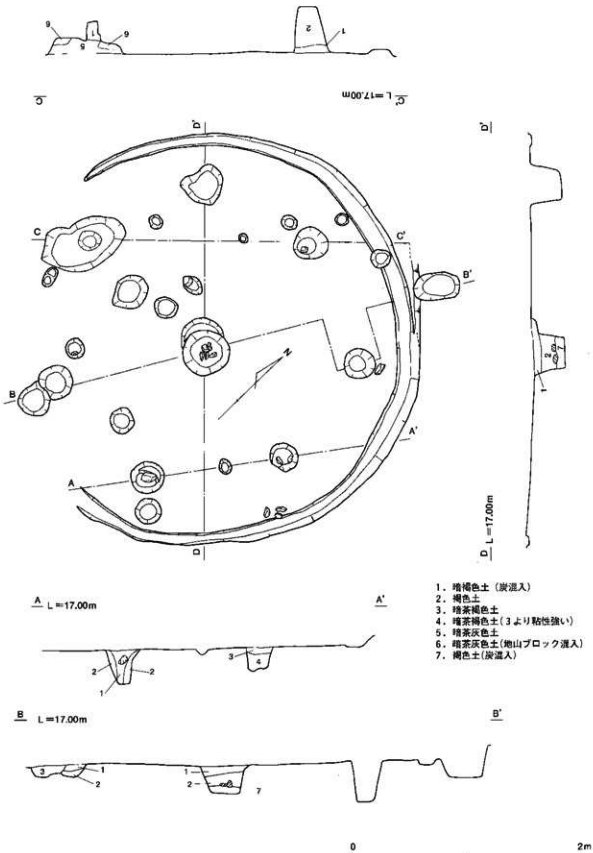
的場丘陵調査区内では古墳時代の竪穴式住居跡（ＳＩ－01）と弥生時代後期の竪穴式住居跡（ＳＩ－02）が１棟ずつ検出された。

ＳＩ－01の規模は東西3.88m、南北3.4m、深さ11～26cmの隅丸方形で、主柱穴２本を持つ。出土遺物は土師器の甕、甑、高坏、低脚坏のそれぞれ細片である。

ＳＩ－02の規模は直径7.5mの円形で、この時期の竪穴式住居跡としては大型の部類に属す。床面には柱穴と思われるものが７穴検出され、７本の柱で屋根を支えていたものと考えられる。また、床面中央には２段に掘り込まれた特殊な穴が検出されたが、用途は不明である。住居内で検出した出土遺物には、砥石、弥生時代後期の甕片がある。

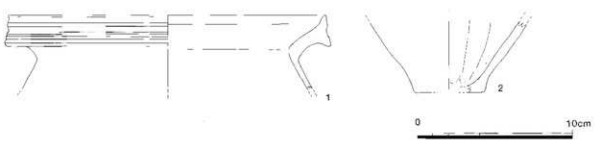



第54図　ＳＩ－01実測図




第55図　ＳＩ－02実測図

ＳＩ－02完掘状況

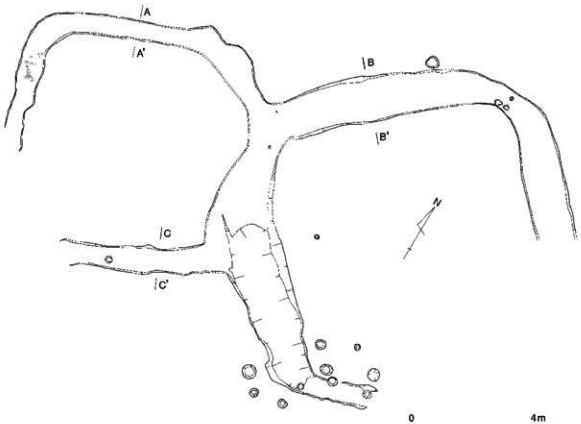



第56図　ＳＩ－02出土遺物実測図

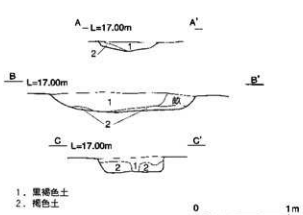
的場１・２号墳完掘状況

### 的場１・２号墳について

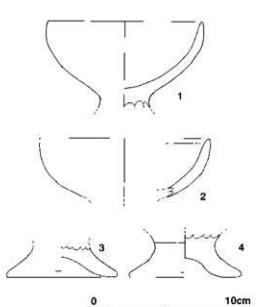
的場丘陵調査区北側では、古墳が２基検出された。いずれも墳丘が削平されており、周溝だけが残っている。的場１号墳は１辺７ｍを測る方墳で、周溝内から低脚坏が８個体検出された。的場２号墳は１辺８ｍを測る方墳で、周溝内から古墳時代中期末頃の須恵器の脚が検出された。



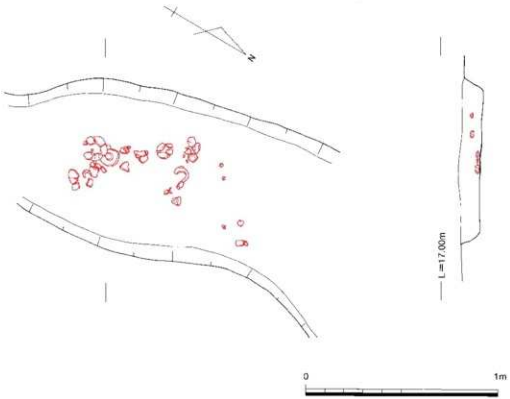

第57図　的場１・２号墳調査成果図




第58図　的場１・２号墳周溝内土層堆積状況




第59図　的場１号墳出土遺物実測図

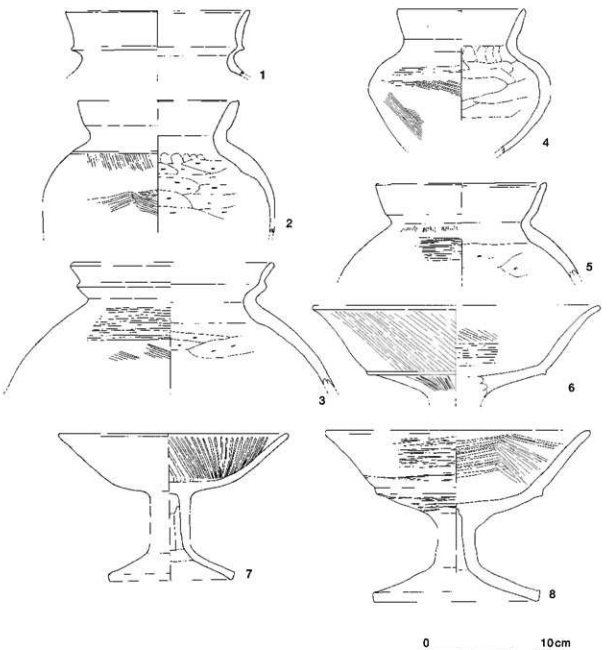



第60図　的場1号墳周溝西側遺物出土状況

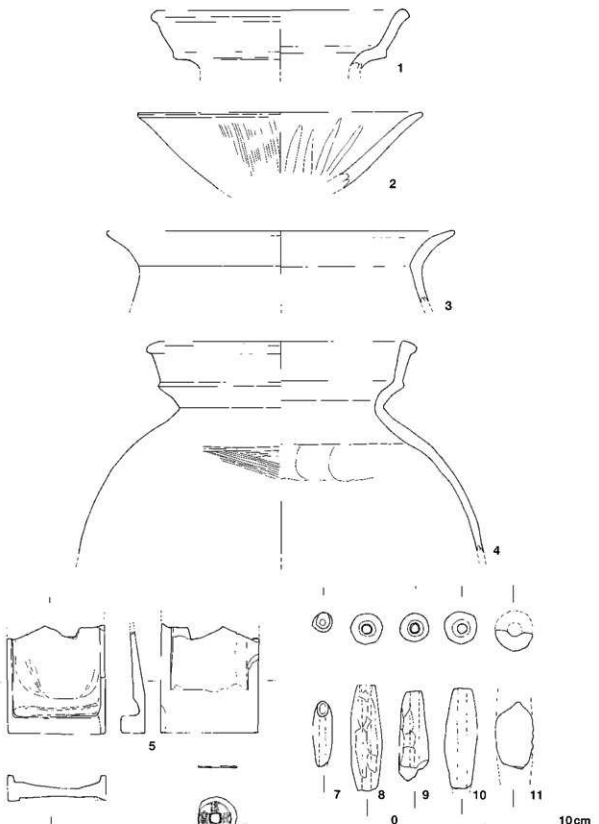
### T－23溝状遺構について

的場丘陵北部に設定した10本のトレンチのうち、T－23からは溝状遺構が検出され、溝底部からは古墳時代中期末頃の須恵器の蓋坏4個と土師器坏1個が出土した。溝の形状から古墳の周溝と推定される。

T－23土器出土状況




第61図　南側拡張区出土遺物実測図

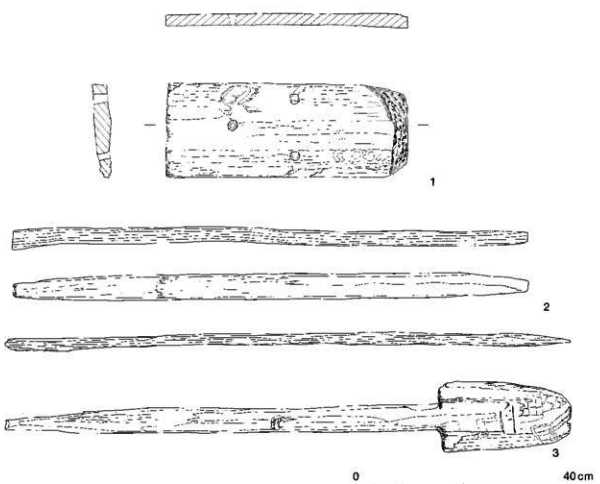



第62図　平成元年度出土遺物実測図（1）

### 3工区の調査

3工区では条里制遺構を確認するため、条里制が現在も畦畔として残っていると推定される箇所に3本のトレンチを設定し、水田面には他の遺跡の有無を確認するために27本のトレンチを設定して調査を実施した。調査の結果、畦を切ったトレンチでは条里制と思われるような確たる遺構は検出されず、水山面に設定したトレンチの内、T－16では旧河川状遺構、T－18では木製品が出土した。

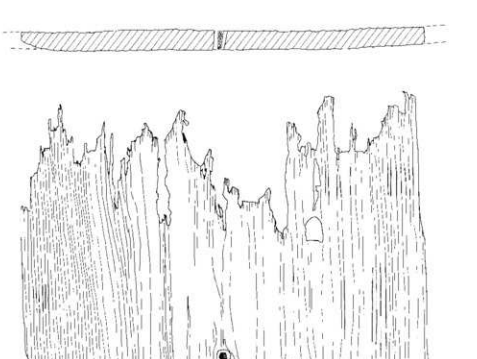
3工区部分に設定したT－18から、建物に使用されたと考えられるほぞ穴を持つ板材に混じって、




第63図　出土木製品実測図（I）

T－18木器検出状況

T－18完掘状況



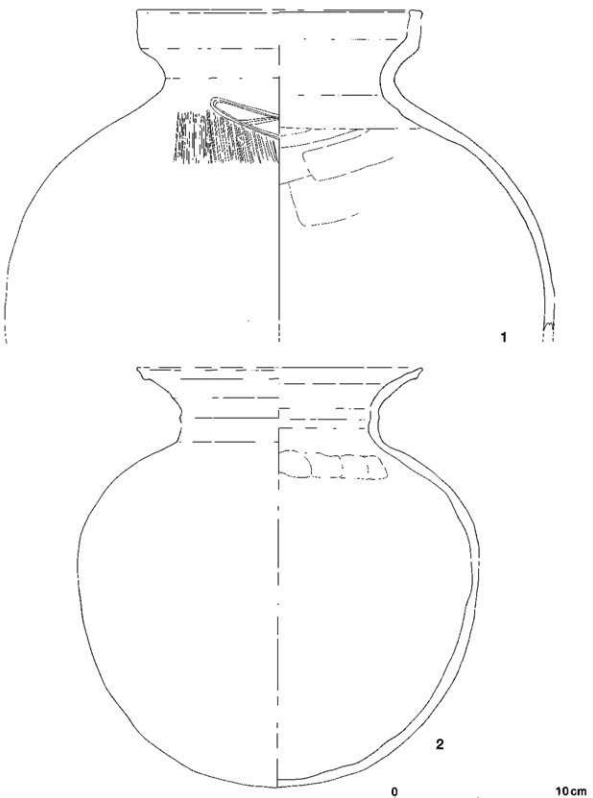

第64図　出土木製品実測図（Ⅱ）

水田の耕作に使われる田下駄が出土した。下駄の先端が焦げており、焼けた廃材を再利用したものと思われる。同時に出土した土器には弥生時代後期の甕片が１片があるが、田下駄の時期を確定するものとはなり得ない。

**旧河川状遺構について（Ｔ－16）**

３Ｉ区部分に設定したトレンチＴ－16で検出された遺構で、川幅最大17mを測る旧河川跡と考えられる。川岸付近では２層に分かれる古墳時代前期の土師器の遺物包含層が見られ、下層では小谷式、上層では大東式を中心とする高坏、甕、壷などが多量に出土し、上層では須恵器の壷が１個体出土した。同時期の土器が多量に出土したことや土器がほとんど摩滅していないことから短期間に一括して投棄されたことが考えられ、付近に住居跡が存在する可能性もあるものと推測する。10工区では水田面に４本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。そのうち３本のトレンチから溝状の落ち込みが確認され、他の１本から古墳時代前期の土師器が数片出土した。付近には遺跡の存在が確認され、平成２年度以降も引き続いて試掘調査を実施することとなった。

３工区Ｔ－16土層堆積状況



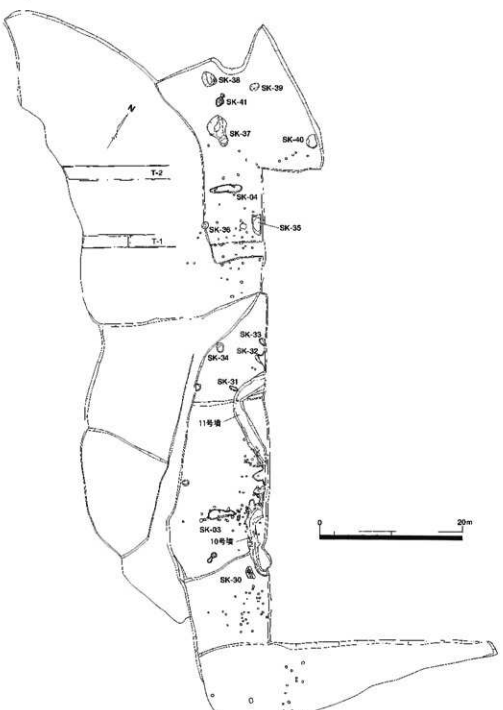

第65図　平成元年度出土遺物実測図（Ⅱ）

平成２（1990）年度

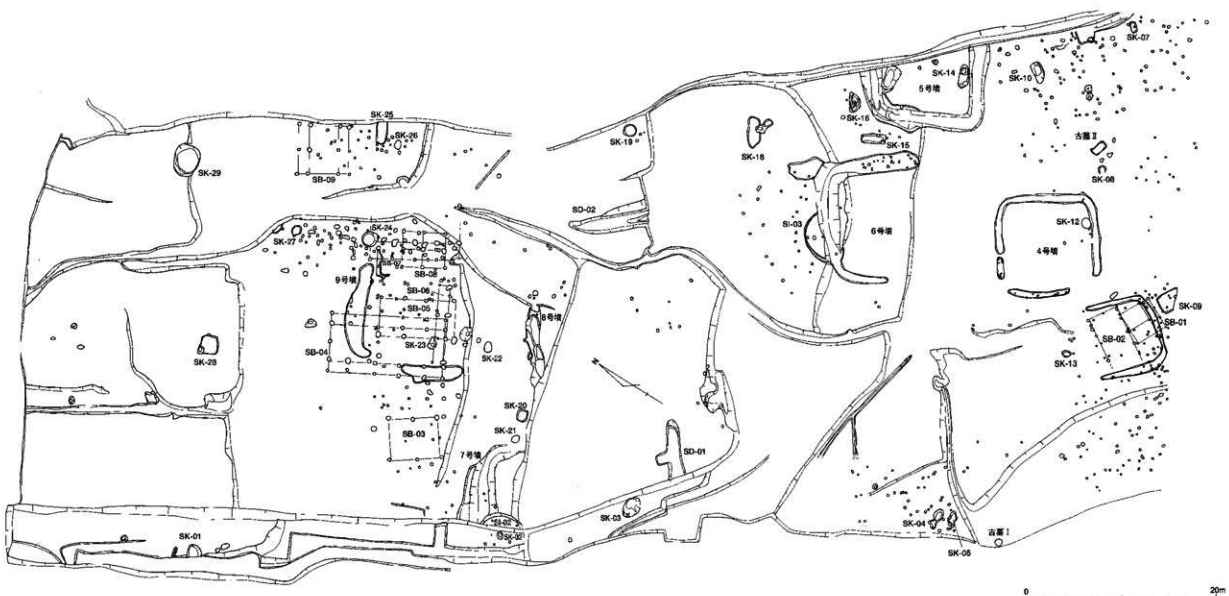
現地調査期間……平成２年４月16日～12月21日

調査箇所……松江市上本庄町1591－１番地外

平成２年度においては、的場遺跡の北側区域の全面発掘調査、的場丘陵北部区域の全面発掘調査、11工区の試掘調査を実施した。




第66図　的場丘陵北部地域調査成果図




第67図　的場遺跡北側区域調査成果図

**的場遺跡北側区域**

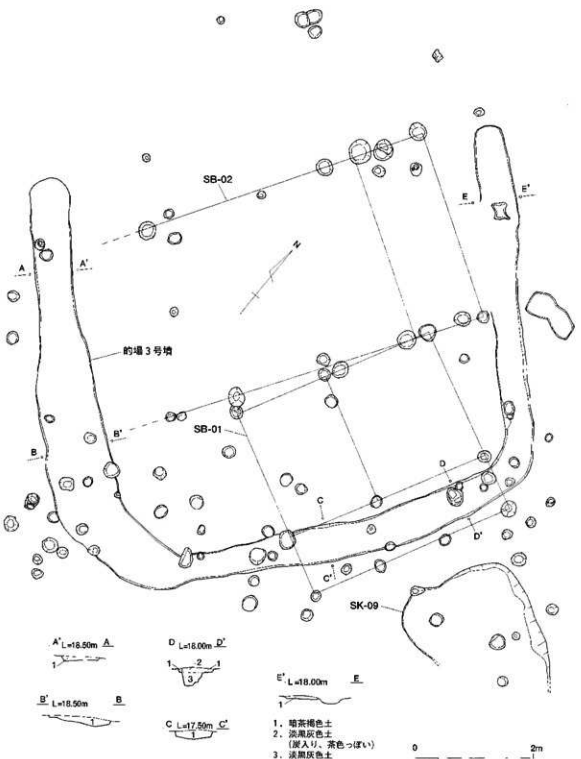
平成元年度に調査した南側区域の続きを全面発掘調査した結果、弥生時代の竪穴式住居跡２棟、古墳７基、中世～近世にかけての掘立柱建物跡９棟、古墓２基、時期不明の土壙29、溝状遺構２、ピット多数が出土した。

**的場３号墳**

推定一辺８mの方墳で、後世の削平により、周溝底部分のみを残す。周溝北辺部は既に消滅している。残存する周溝は幅45～110cmを測り、深さは５～15cmを残すのみである。周溝中からの古墳に伴う遺物の出土はなかった。

的場３号墳完掘状況

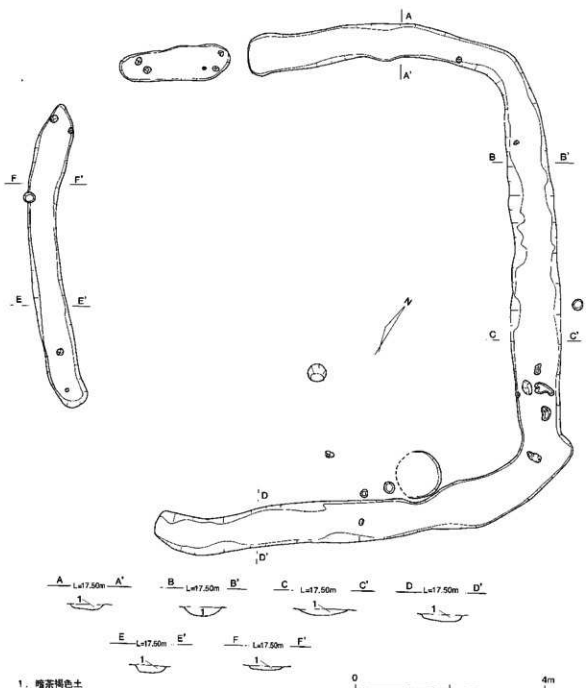
的場４号墳完掘状況




第68図　的場3号墳、ＳＫ－09調査成果図

**的場4号墳**

一辺11mの方墳で、後世の削平により、周溝底部分のみを残す。周溝は南西隅と北西隅部分が既に消滅している。残存する周溝は幅60～100cmを測り、深さは10～20cmを残すのみである。周溝中からの古墳に伴う遺物の出土はなかった。

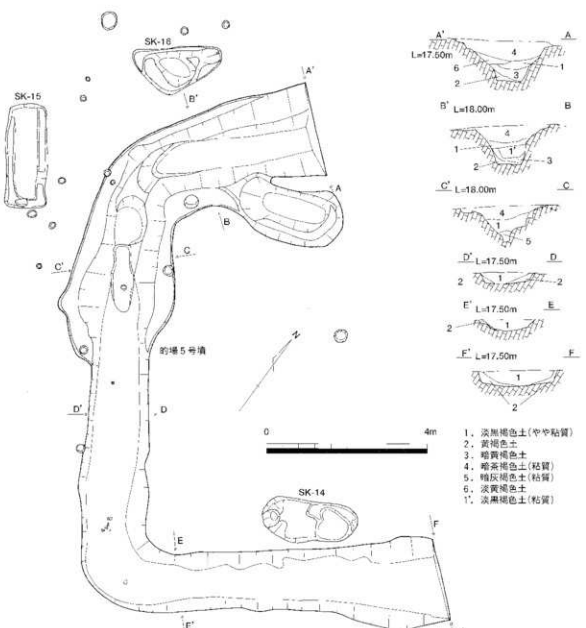



第69図　的場4号墳調査成果図

的場５号墳完掘状況

的場５号墳

推定一辺13mの方墳で、後世の削平により、周溝底部分のみを残す。残存する周溝は幅140～200cmを測り、深さは30～85cmを測る。周溝底部からは５世紀末の鍛１個体、土師器の小壺１個体、椀２個体が出土したが、いずれも原位置を保つものではなく、墳丘からの落ち込みのものである。また周溝上層部分では土師器の細片が多数出土している。

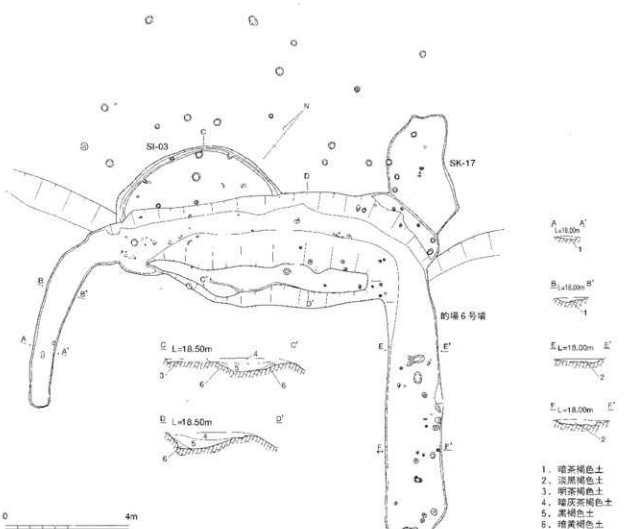



第70図　的場５号墳調査成果図

的場６号墳完掘状況

### 的場６号墳

推定一辺13.5mの方墳で、後世の削平により、周溝底部分のみを残す。周溝南辺部は既に消滅している。残存する周溝は幅70～250cmを測り、深さは10～30cmを残す。周溝底部からは朝顔形円筒埴輪片１、器形不明の土師器片、須恵器片が出土したが、いずれも原位置を保つものではなく、墳丘からの落ち込みのものであると考えられる。また上層部でも土師器、須恵器の細片が多数出土し、ＳＩ－03を切った時に混入したと思われる弥生土器片を若干混入していた。

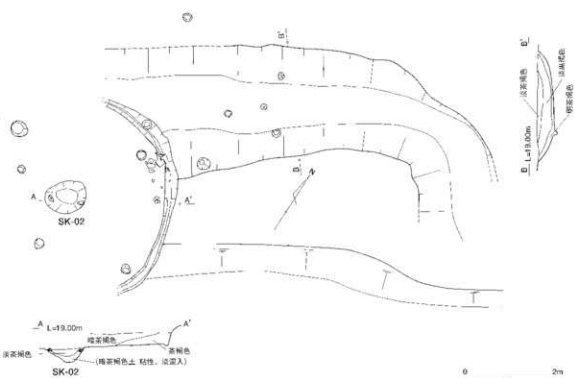



第71図　的場６号墳、ＳＩ－03、ＳＫ－17調査成果図

的場７号墳完掘状況

的場７号墳

後世の削平により周溝の一部を残すのみで、規模等は不明であるが、周溝が直角に曲がったコーナーが検出されているので方墳であったと考えられる。残存する周溝は、幅150～270cmを測り、深さは25～35cmを残すのみである。周溝埋土中底部付近から、土師器、須恵器の細片が若干出土した。

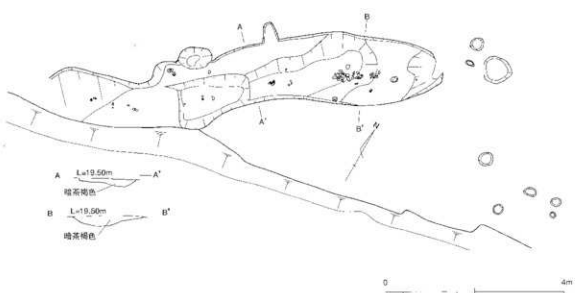



第72図　的場７号墳、ＳＩ－04調査成果図

的場８号墳完掘状況

### 的場８号墳

後世の削平により周溝の一部を残すのみで、規模、墳形共に不明であるが、周溝中から円筒埴輪片が多量に出土したため、古墳の周溝であると判断される。残存する周溝は幅120～160cmを測り、深さは５～20cmを残すのみである。




第73図　的場８号墳調査成果図

### 的場９号墳

後世の削平により周溝の北辺と西辺を残すのみで、規模等は不明であるが、周溝が直角に曲がったコーナーが検出されているので方墳であったと思われる。残存する周溝は幅120～200cmを測り、深さは５～15cmを残すのみである。出土遺物は周溝底部から須恵器の器台片が２片検出されたのみである。

S I −03完掘状況

S I −03

的場６号墳築造時に約半分を消失しているが、推定径約６ｍの円形住居跡であると判断される。主柱穴となりうるピットは２か所しか検出されておらず、元来何本の柱で、どのような上屋構造を支えていたのかは不明である。住居壁沿いには幅15cm前後、深さ15cm前後の溝が掘り込まれている。床面上からは弥生中期末頃の壺形土器の口縁部破片が２個と、器形不明の細片若干が出土した。

S I −04完掘状況

S I −04

的場７号墳築造時に約半分を消失しているが、推定径約5.3mの円形住居跡であると判断される。床面においてピットは２箇所しか検出されておらず、元来何本の柱で、どのような上屋構造を支えていたのかは不明である。また床面中心部に75×95cm、深さ35cmの楕円形のピットがあり、ピット内上端部に小礫２個が検出された。用途は不明であるが、いわゆる特殊ピットであろう。出土遺物は、北東住居壁際床面上に若干あったが、風化は著しく、時期、器形ともに不明である。

ＳＤ－01完掘状況

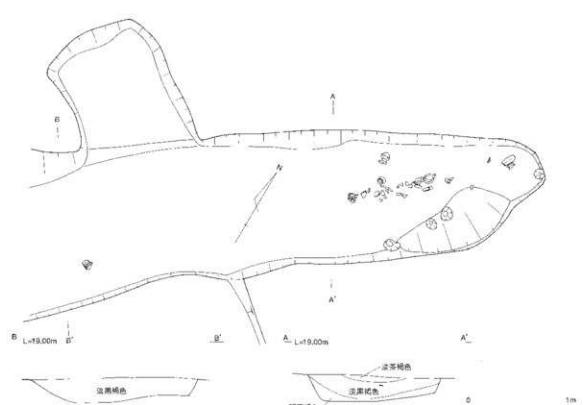
ＳＤ－01内遺物出土状況

ＳＤ－01

残存長約９ｍ、幅1.1～1.5ｍ、深さ10～35cmを測る溝状遺構で、溝底部からは５Ｃ末の須恵器のはそう１個体、蓋坏２個体、甕片１、土師器の低脚坏２個体、その他細片多数、円筒埴輪片１個体が出土した。出土遺物から考えて、ＳＤ－01は元来古墳の周溝の一部であった可能性が高いと判断される。

ＳＤ－02

残存長約8.5ｍ、最大幅３ｍ、深さ20～40cmを測る溝状遺構で、溝底には拳大から人頭大の礫が散在し、埋土中にも粗砂礫を多く含むことから河川状の遺構であると考えられる。

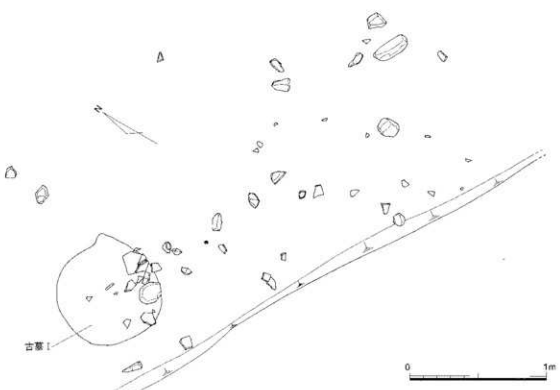



第74図　ＳＤ－01実測図

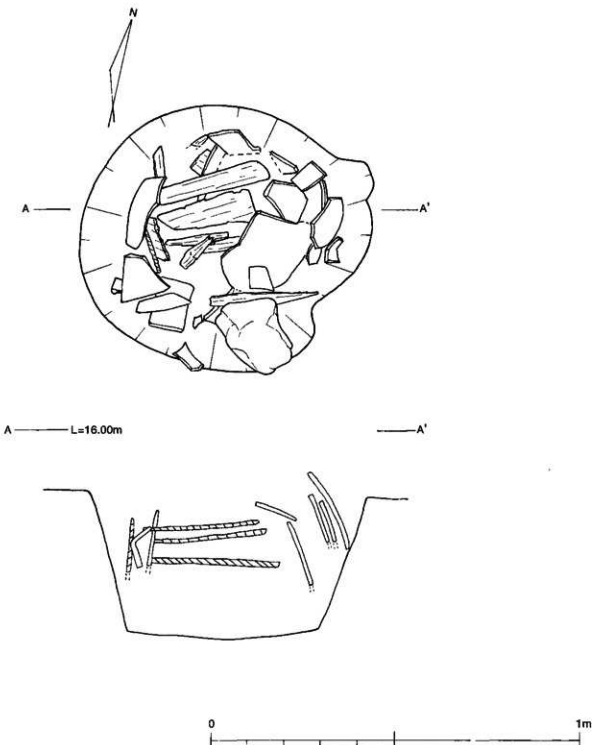
中世墓Ⅰ検出状況

中世墓

中世墓Ⅰは直径75cm、深さ40cmの円形の墓壙中に、備前大甕が横倒しになった状態で検出された。壺内部には板状の木材が数枚入っていたが、製品であるかどうかは不明である。その他には遺物はなかった。甕の年代から14～15世紀の墓であろうと考えられる。また検出面付近で近世の伊万里青磁碗1個と古銭1枚、鉄釘1本が検出されている。




第75図　中世墓Ⅰ平面図



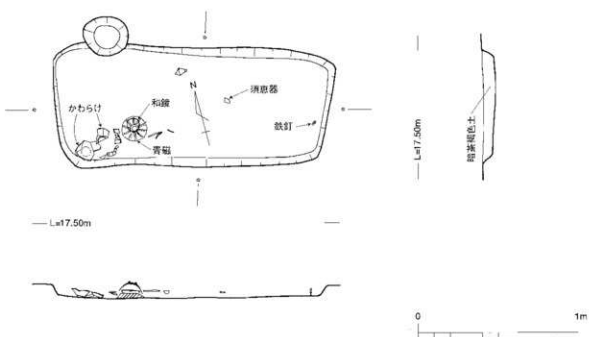

第76図　Y－10区、中世墓Ⅰ実測図

備前壺検出状況

中世墓１完掘状況

中世墓Ⅱ完掘状況

中世墓Ⅱは長辺170cm、短辺75cm、深さ10cmの方形墓壙中に、12世紀末～13世紀初の渥安窯系青磁碗が伏せた状態で検出され、更にその下に素文の和鏡が鏡を下に向けて置かれていた。また鏡の下には炭化物が残り、木棺の痕跡あるいは鏡を木箱に入れて納めた可能性が考えられる。その他の出土遺物には「かわらけ」2～3個体分、鉄釘1本があった。




第77図　中世墓Ⅱ実測図

中世墓Ⅱ内道安窯系青磁検出状況

中世墓Ⅱ内和鏡検出状況

SB－01

2×1間、片面庇付の掘立柱建物跡で、2.56×1.64m（桁行×梁行、以下略）の建物の東側に2.56×0.74mの庇が付く。主軸はN－28°－E（Nは磁北、以下略）、ピット規模は主屋部分で径20～32cm、深さ10～36cm、庇部分で径20～28cm、深さ10～30cmを測る。P－1中から「かわらけ」が出土しており、中世の建物であると推定される。

SB－01・02完掘状況

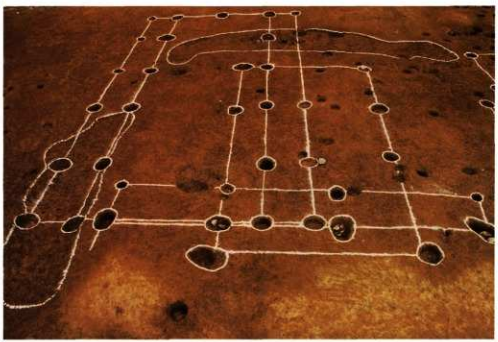
SB－02

3×1間の掘立柱建物跡で、桁行はまだ延びる可能性がある。現存規模は3.5×2.3m、主軸方向はN－32°－Eである。ピット規模は径20～42cm、深さ15～35cmを測る。ピット中出土遺物は検出されていないが、SB－01と近似した時期であると考えられる。

SB－03完掘状況

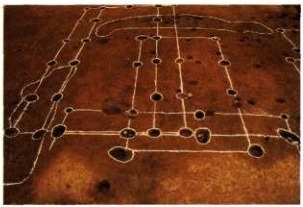
SB－03

2×2間の南北方向に長い掘立柱建物跡で、規模は5.0×4.2mを測り、主軸方向はN－35°－Wである。ピット規模は径40～45cm、深さ35～70cmを測る。P－12底には柱根が残っていた。ピット中出土遺物はなく、時期は不明である。



ＳＢ－03～08完掘状況

現場作業状況



ＳＢ－04～06完掘状況

ＳＢ－04

５×２間の両面に庇の付いた南北方向に長い掘立柱建物跡で、11.9×3.8mの建物の西側に11.9×1.2m、東側に11.9×1.1mの庇を付ける。主軸方向はＮ－28°－Ｗである。ピットの規模は上層部分で径35～55cm、深さ18～54cm、底部分では径25～50cm、深さ11～30cmを測る。Ｐ　１には柱根の一部と思われる木材片が出土し、Ｐ－２～５には根固め用と考えられる石材が検出された。ピット中出土土器はなく時期は不明である。

ＳＢ－05

３×１間の南北方向に長い掘立柱建物跡で規模は7.9×4.0mを測り、主軸方向はＮ－28°－Ｗである。ピット規模は径35～63cm、深さ７～38cmを測る。出土土器はなく時期は不明である。

ＳＢ－06

３×１間以上の片面に庇の付いた東西方向に長い掘立柱建物跡で桁行7.9m×梁行不明の建物の北側に7.9×1.1mの庇を付ける。主軸方向はＮ－64°－Ｅである。南側の桁は検出できなかったが、本来はＳＢ－04のような建物であった可能性が考えられる。ピット規模は主屋部分で径40～55cm、深さ15～34cm、庇部分では径23～30cm、深さ12～31cmを測る。Ｐ－１～３には根固め用と考えられる石材が検出された。ピット中出土土器はなく、時期は不明である。

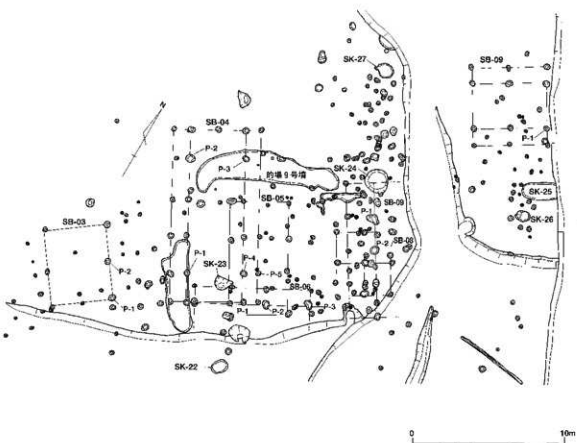
ＳＢ－07・08完掘状況

ＳＢ－07

４×１間以上の片側に庇の付いた南北方向に長い掘立柱建物跡で、桁行9.3m×梁行不明の建物の西側に7.3×1.7mの庇を付ける。主軸方向はＮ－31°－Ｗである。東側の桁は検出できなかったが、本来はＳＢ－04のような建物であった可能性が考えられる。ピット規模は上屋部分で径40～68cm、深さ14～57cm、底部分では径30～40cm、深さ５～34cmを測る。Ｐ－12には根固め用と考えられる石材が検出された。出土土器はなく、時期は不明である。

ＳＢ－08

２×２間の南北方向に長い総柱の掘立柱建物跡で、規模は4.5×3.6mを測り、主軸方向はＮ－30°－Ｗである。ピット規模は径40～45cm、深さ10～24cmを測る。ピット中出土土器はなく時期は不明である。




第78図　的場９号墳、ＳＢ－03～09、ＳＫ－22～27実測図

ＳＢ－09完掘状況

ＳＢ－09

２×１間の両側に庇の付いた主軸を東西方向におく掘立柱建物跡で、5.1×3.3mの建物の北側に5.1×1.1m、南側に5.1×1.1mの庇を付ける。主軸方向はＮ　61°－Ｅである。ピットの規模は主屋部分で径30～50cm、深さ27～35cm、庇部分では径25～40cm、深さ17～47cmを測る。Ｐ－１には根固め用と考えられる石材が検出された。またピット中から「かわらけ」片が出土している。

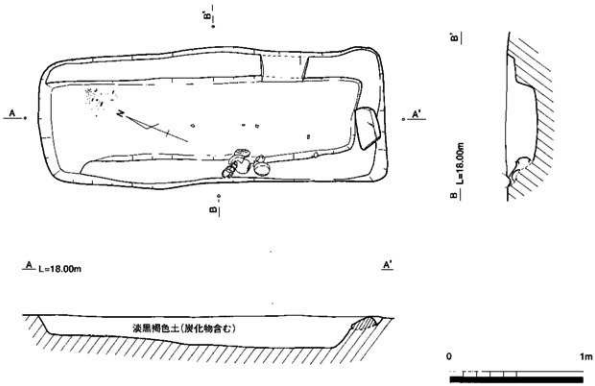
ＳＫ－15内土層堆積状況

ＳＫ－15内玉類出土状況

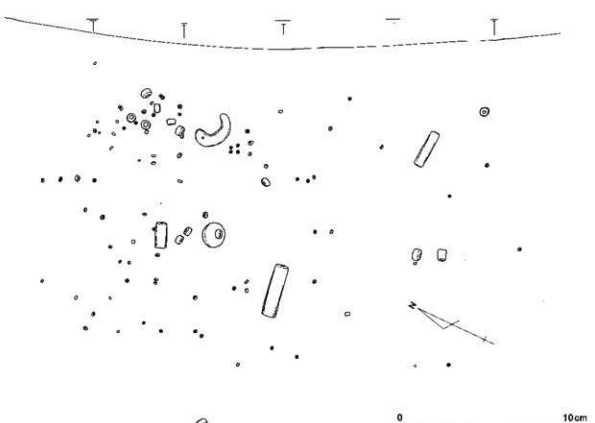
ＳＫ－15

南北2.6m、東西1.05m、深さ20～23cmを測る長方形の土壙墓である。西壁には５世紀末の須恵器の坏身、はそう各１個体、土師器の椀３個体が検出され、土壙底北側部分からは赤馬瑙製勾玉１個、碧玉製管玉３個、ガラス小玉192個が出土した。

SK一柱内出土玉類
15




第79図　ＳＫ－15実測図




第80図　ＳＫ－15玉類出土状況

ＳＫ－25検出状況

ＳＫ－25内土層堆積状況

ＳＫ－25内埋土除去後

ＳＫ－25

東西2.1m、南北1.25mを測る長方形の土壙である。土壙内部は平坦な石を底に敷き、周囲には平坦な石を小口積みに積み上げ、中央部で拳大～人頭大の礫で仕切りをしている。床石面には１～２cmの厚さで炭が堆積していたが、石の状況から火を使った形跡はなく、意図的に炭を敷いたものであることが分かった。出土遺物は、埋土中に「かわらけ」の細片が若干混入していた。その他には全くなく、時期、用途ともに不明である。

的場丘陵北部区域

平成元年度にトレンチによる試掘調査を実施した的場丘陵北部区域について、元年度に遺構の発見された箇所を中心として発掘調査を実施した。

その結果、古墳２基、溝状遺構２、土壙12、ピット多数が検出された。

的場10・11号墳検出状況

的場10号墳

推定一辺10mの方墳で、後世の削平により周溝底部分のみを残す。残存する周溝は幅60～140cm、深さ23～42cmを測る。周溝中から土師器の細片が出土しているが、いずれも器形、時期ともに不明である。

的場11号墳

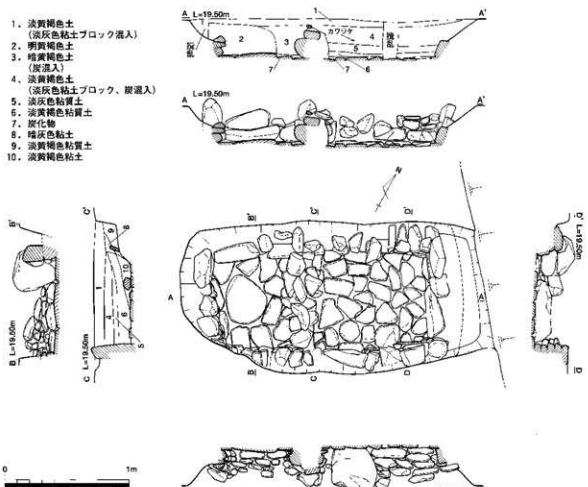
調査区内に該当する部分が少ないため規模は不明であるが、周溝が直角に曲がったコーナーが検出されているので方墳と考えられる。残存する周溝は幅100～260cm、深さ31～56cmを測る。また、平成元年度の試掘調査で11号墳の周溝部分から５世紀末の須恵器の蓋坏３、坏身１、土師器坏１個が検出されている。

的場10号墳周溝内土層堆積状況

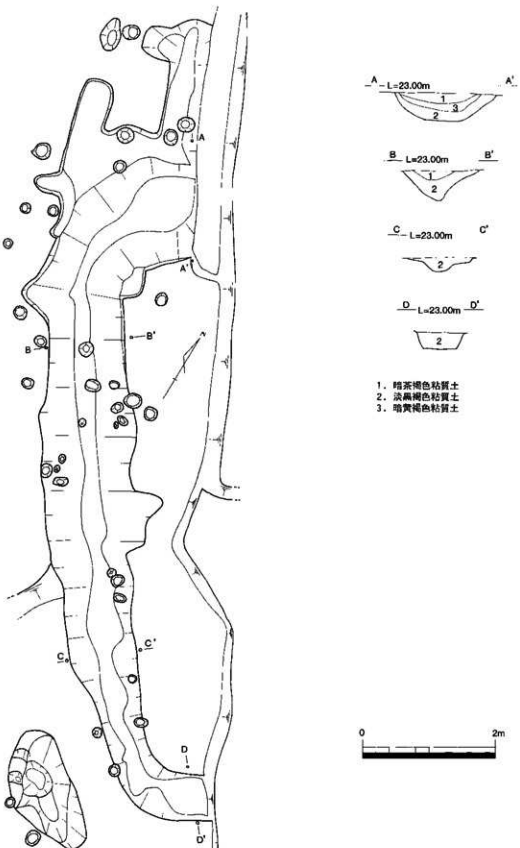
的場11号墳周溝内土層堆積状況

的場10号墳完掘状況

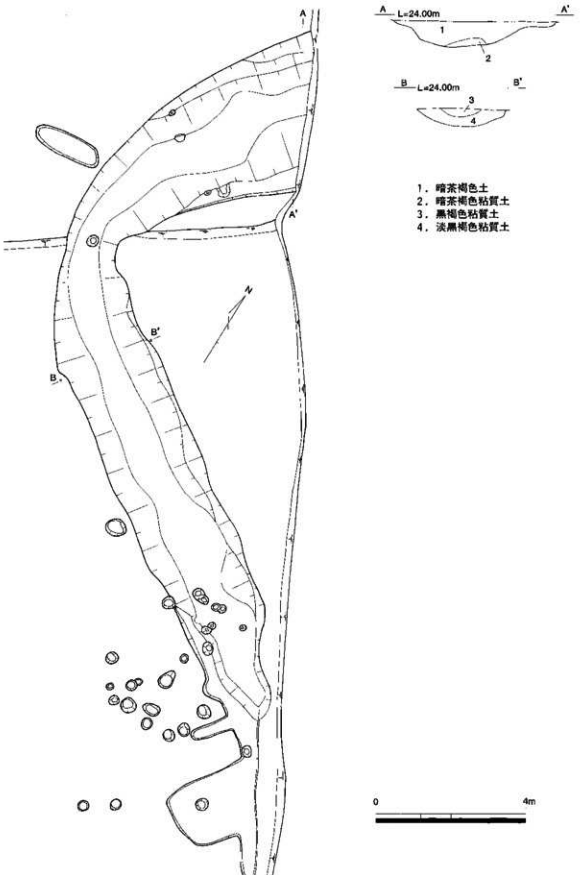
的場11号墳完掘状況




第81図　ＳＫ－25実測図




第82図　的場10号墳実測図




第83図　的場11号墳実測図

SD－03

残存長3.1m、幅50～100cm、深さ約10cmを測る溝状遺構で、出土遺物は埋土中に土師器片が1片あったのみである。

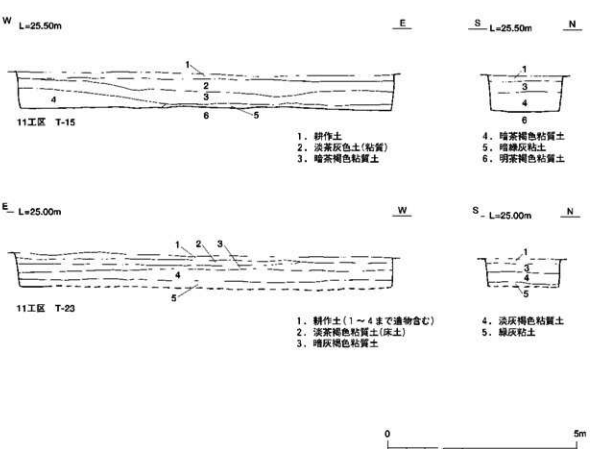
SD－04

残存長4.5m、幅60～110cm、深さ約10cmを測る溝状遺構で出土遺物はなく、時期、性格共に不明である。

11工区

11工区では水山部分に10×2mのトレンチを26本設定した。その結果、いずれのトレンチにおいても耕作土の下には暗青灰色のまた暗灰～暗茶褐色粘質土が数層にわたって堆積しており、下部層においては若干細砂礫が混入し、最終的には淡青灰色の粗砂礫の層に行き当たり遺構は全く検出されなかった。

遺物については、11工区西側丘陵裾部に設定したT－15・23において、須恵器片、土師器片、陶器片が多量に出土した他は、15本のトレンチにおいて1トレンチあたり数片の摩滅した須恵器、土師器、陶器の細片が出土したのみである。




第84図　11工区トレンチ土層断面図

T－15完掘状況

T－23完掘状況

T－15

11工区西側丘陵裾部に設定したトレンチである。調査の結果、第２～３層から７～８世紀の須恵器片（高台付坏、壺類、高坏、甕）、土師器片（坏類）や備前すり鉢片などが多量に検出された。しかし、いずれも摩滅していることや、下層の第４～５層からは遺物が検出されていないことから、遺構に伴う遺物であると考えにくく、西側の丘陵上にあったと思われる遺構が、後世の削平により消失した時に流上と共に堆積したものであろうと考えられる。

T－23

T－15の南側に追加して設定したトレンチである。調査の結果、耕作上～２層にかけてT－15と同じく、７～８世紀の須恵器片（高台付坏、皿、甕）、土師器片（坏類）や、中世の陶器片、かわらけ片が出土した。しかしいずれも摩滅しており、T－15と同じく西側丘陵からの流れ込みによるものであると判断される。

**遺物の検討**

１は的場５号墳の周溝中から出土した土師器の低脚坏で、口径14.0cm、底径9.0cm、器高10.3cmを測る。内外面ともに風化が著しく調整は不明である。

２は的場９号墳の周溝中から出土した須恵器の器台片で、口径等は不明である。外面全体に暗緑灰色の釉がかかっているため、脚部の破片であると考えられる。外面に７条の波状文を施す。

３・４はＳＩ　03床面から出土した弥生土器甕口縁部の破片で、口径等は不明である。内外面ともに風化が著しく調整は不明である。

５はＳＤ－01から出土した須恵器の蓋で口径11.5cm、器高12.5cmを測る。口縁部には段を有し、頂部外面に16条の波状文を施す。底部は丸く、ヘラケズリの後ナデで仕上げる。時期は６世紀初頭と推定される。

６はＳＤ－01から出土した須恵器の坏身で口径10cm、器高5.1cmを測る。口縁部にはやや退化した段が残り、時期は６世紀初頭と推定される。

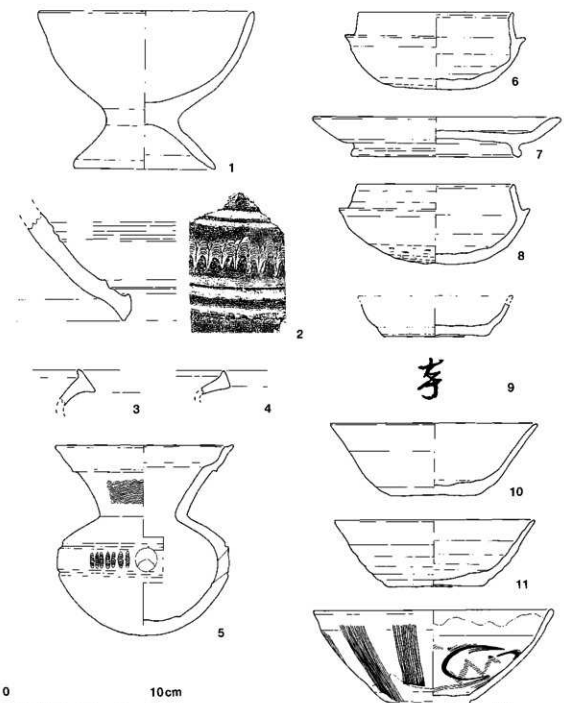
７はＴ－15から出土した須恵器の盤で、口径16.2cm、器高2.6cm、底径11.0cmを測る。底部外面に回転糸切り痕を残す。

８はＳＫ－15から出土した須恵器の坏身で口径10.2cm、器高5.3cmを測る。口縁部には段を有し、５世紀末頃と推定される。

９はＸ－９区から出土した墨書土器で、須恵器坏底部外面に「寺」と推定される墨書を記す。土器は底部外面に回転糸切り痕を残し、７世紀の坏であると考えられる。

10・11は中世墓から出土したかわらけで、10は口径13cm、器高4.3cm、11は口径13.4cm、器高4.7cmを測る。

12は中世墓Ⅱから出土した同安窯系青磁碗で、口径15.6cm、器高6.9cmを測る。内面全体と外面の高台付近を除く部分に黄緑灰色の釉がかかる。内面に草花文を施し、外面は削りだしの高台部から口縁部にかけて放射状にクシ状工具による沈線を施す。時期は12世紀末～13世紀初頭であると思われる。




第85図　平成２年度出土遺物実測図

平成３（1991）年度

現地調査期間……平成３年５月７日～７月５日

調査箇所……松江市上本庄町1859番地外15筆

平成３年度においては、11工区北側、９工区、４工区の試掘調査及び京殿道跡の一部発掘調査を実施した。

11工区

11工区南側については、前年度の調査の結果、遺構は全く検出されなかったが、今年度は11工区北側水山部分に、10×２ｍのトレンチを20本設定し、調査を実施した。その結果、11工区北東側の北山農免道路付近の水田は近年、土地改良されたためか、耕作土下２・３層（38cm～64cm）に人頭大～拳大の転石、礫が水平に敷き詰められていた。そこで、１ｍ幅のサブトレンチにより礫層を掘り下げたが遺構は検出されなかった。11工区北西側の水山では深さ80～143cm掘り込んで遺物が検出できなくなった時点で調査を打ち切った。

４工区Ｔ－８完掘状況

４工区

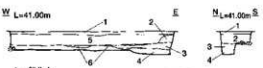
本庄川末部、北山農免道路北部に位置する水田部分に、10×２ｍのトレンチを20本設定し、調査を実施した。その結果、全てのトレンチにおいても耕作土の下には暗灰～暗茶褐色粘質土が数層にわたって堆積しており、最終的には淡緑灰色砂礫層に行き当たり、遺構は全く検出されなかった。

９工区

本庄川西部、北山農免道路北部に位置する水田部分に、10×２ｍのトレンチを20本設定し、調査を実施した。９工区には、京殿遺跡及び中西古墳群が周知されているため、これらの遺跡範囲の確認を主眼において調査を進めた。

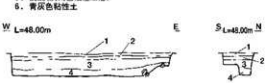
まず、９工区南西に位置する中西３号墳の（巨石が４個露出している）墳丘推定部については、地権者の要望で、圃場区域から除外することになっていたので、周溝の有無を確認するため、墳丘東（Ｔ－15）、墳丘西（Ｔ－17）、墳丘南（Ｔ－18）にそれぞれ１本のトレンチを設定し地山まで掘り下げた。その結果、墳丘西（Ｔ－17）は、地表から30cmで地山に達し、墳丘東（Ｔ－15）、墳丘南（Ｔ－18）も深さ43～135cmで地山に達したが、周溝は検出されなかった。転石が散在し、撹乱を受けていたことから、近年境界の石垣を築いた際に、周辺を削り込まれた可能性も考えられる。

次に、京殿遺跡については９工区南部に設定したトレンチ（Ｔ－13）から９工区北部に設定したトレンチ（Ｔ－３）まで多数の遺物が出土し、範囲は９工区ほぼ全域にわたることがわかった。Ｔ－５・６・７・８・10・13は、地表から１ｍ前後掘り下げると砂礫層に達し、第２～３層中で遺物が多量に



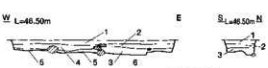

1．耕作土
2．明褐色土
3．暗茶褐色粘性土
4．灰褐色弱粘性土(黄白緑青ブロック含む)
5．撹乱(灰褐色粘性礫層)
6．青灰色粘性土

4工区　T-8




1．耕作土
2．青灰色粘性土
3．灰褐色粘性土
4．暗灰褐色粘性土

9工区　T-3



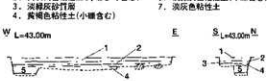

9工区　T-4

1．耕作土
2．淡灰褐色土(弱粘性)
3．暗灰褐色粘性土
4．灰褐色土(弱粘性、礫多く含む)
5．淡緑灰砂礫層
6．暗灰褐色粘性土(中礫含む)

9工区　T-5

1．耕作土
2．暗灰褐色粘性土
3．暗灰褐色粘性土(転石・小礫含む)
4．暗灰褐色砂礫層(小礫含む)

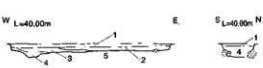
9工区　T-6

1．耕作土
2．灰灰褐色粘性土(中礫多く含む)
3．淡緑灰砂質層
4．黄褐色粘性土(小礫含む)
5．淡緑灰色粘性土(小礫含む)
6．淡緑灰色粘性土(中礫含む)
7．淡灰色粘性土

9工区　T-7

1．耕作土
2．黄褐色粘性土(小・中礫含む)
3．青灰色土(弱粘性)
4．暗茶褐色粘性土(礫含む)
5．青灰色砂礫層

9工区　T-8

1．耕作土
2．暗茶褐色弱粘性土(小・中礫含む)

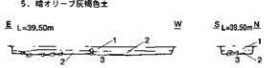



9工区　T-10

1．耕作土
2．オリーブ灰褐色砂礫層
3．橙灰色粘性土
4．暗緑灰褐色粘性土(3よりしまる)
5．淡茶褐色砂質層

9工区　T-12

1．耕作土
2．淡灰褐色土(弱粘性)
3．黄褐色土(転石多く含む)
4．オリーブ灰褐色土
5．暗オリーブ灰褐色土




9工区　T-13

1．耕作土
2．灰褐色粘性土(転石含む)
3．灰褐色粘性土(小・大礫含む)

9工区　T-14

1．耕作土
2．茶褐色粘性土
3．黄褐色粘性土(小・大礫多く含む)




第86図　平成３年度調査トレンチ土層断面図

9工区T－3完掘状況

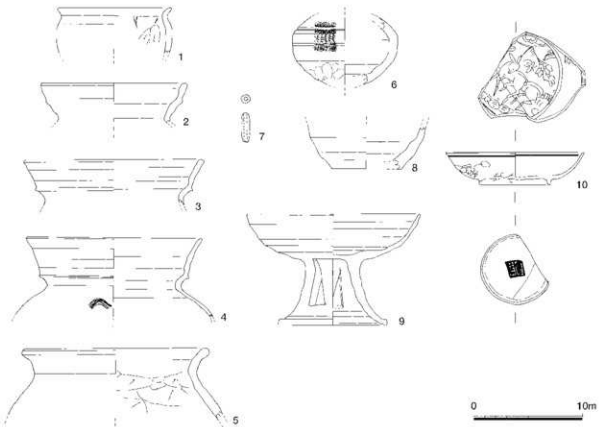
9工区T－4完掘状況

9工区T－7完掘状況

9工区T－8完掘状況

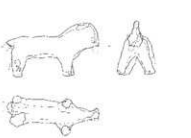
9工区T－10完掘状況

9工区T－12完掘状況



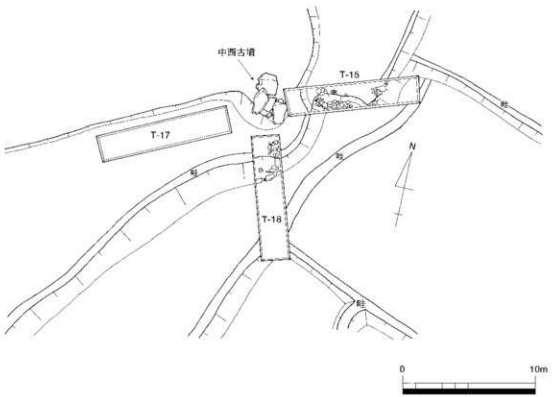

第87図　平成３年度出土遺物実測図

出土した。Ｔ　３・４は、粘性土が数層にわたって堆積しており、１ｍ以上掘り下げても砂礫層に達しなかった。遺物は、第３層～最深部にかけて多量に出土した。調査の結果、粘性土・砂礫層中に多種多様の遺物が広範に散布していることが明らかになった。転石は無数に散在していたが、遺構は全く検出されなかった。




第88図　９工区Ｔ－４出土土馬実測図

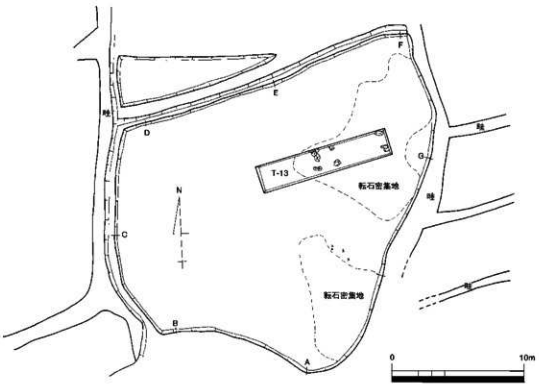
９工区Ｔ－４出土土馬出土状況



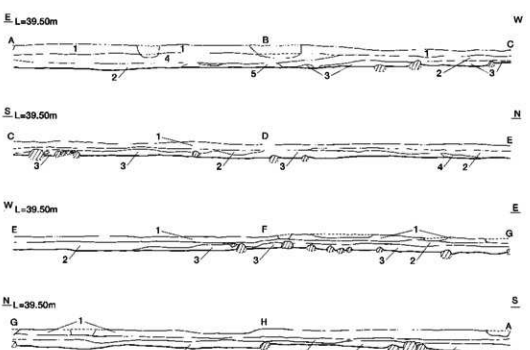

第89図　中西古墳周囲平面図

9工区T－13完掘状況

中西古墳検出状況




第90図　9－A区調査平面図




第91図　9－A区土層断面図

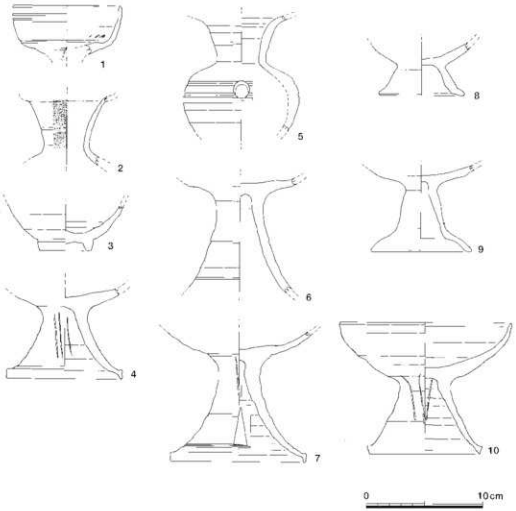
京殿遺跡

範囲を確認した京殿遺跡について、圃場に伴い土を削る範囲4箇所を南からA区、B区、C区、D区とし、3年度はA区、D区の調査を実施した。

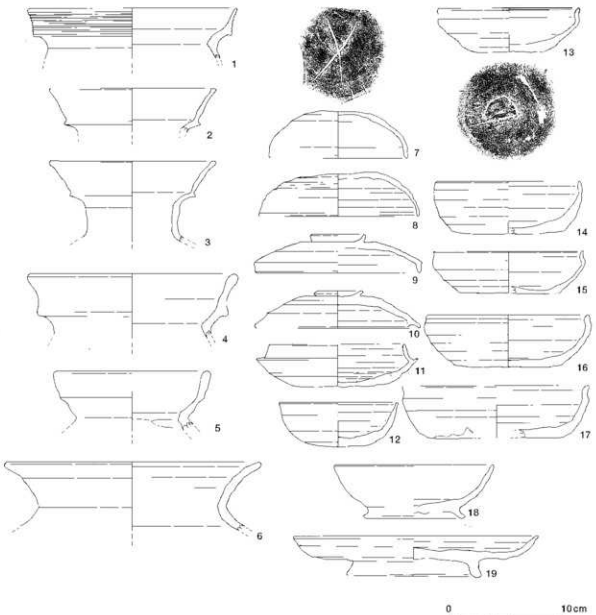
京殿遺跡A区

9工区南部の農道沿いに位置するA区については、試掘調査の結果を踏まえて全面発掘調査を実施した。調査の結果、遺構は全く検出されなかった。遺物は、古墳時代後期～奈良時代のものがほとんどで生活用什器（土製支脚、高坏、坏身、坏蓋、盤、甑片など）から祭祀用遺物（手捏土器）まで出土している。

9－A区全景




第92図　9－A区出土遺物実測図（I）



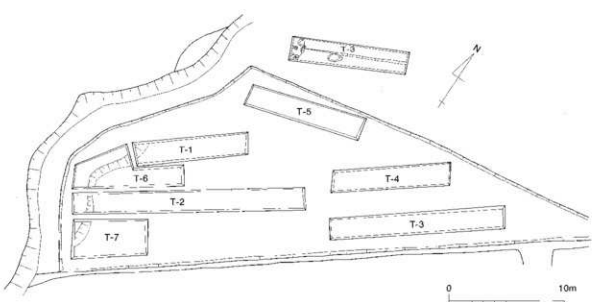

第93図　9－A区出土遺物実測図（Ⅱ）

9－A区遺物出土状況

京殿遺跡Ｄ区

９工区北部に位置するＤ区については、遺物包含層が深いため、圃場に伴い土を削る深さ30cm程度まで全域表土掘削の後、７箇所のトレンチを設定し、調査を実施した。調査の結果、調査区西端３層下より地山が検出されたが、その他の区域は数層にわたって粘土層が堆積し、遺物が出土しなくなった時点で調査を打ち切った。Ｔ－２地山直上とＴ－１の３層中から坏身の完形品が伏せた状態で出土した。

９－Ｄ区全景




第94図　９－Ｄ区調査平面図

T-1

1．耕作土
2．灰褐色粘性土
3．灰色粘性土
4．暗灰色粘性土
5．黄褐色砂質粘性土（転石含む）

T-2

1．耕作土
2．青灰色弱粘性土
3．灰色粘性土
4．暗灰色強粘性土
5．地山

T-3

1．耕作土
2．灰褐色土
3．黒灰色粘性土
4．明灰色粘性土
5．黄褐色砂質層（礫混入）
6．暗灰粘性土（転石含む）
7．灰色粘性土
8．明黄褐色土

T-5

1．耕作土
2．青灰色弱粘性土
3．灰色粘性土
4．暗灰色強粘性土

T-6

1．耕作土
2．灰褐色弱粘性土
3．灰色粘性土
4．暗灰色粘性土
5．淡灰褐色粘性土
6．灰褐色弱粘性土（1よりやや暗い）
7．暗黄灰色粘性土
8．黄褐色土（しまり強い）
9．地山

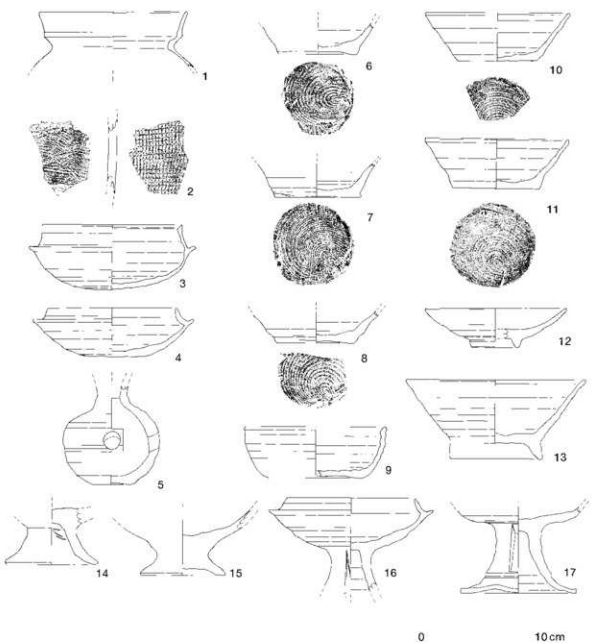
T-7

1．耕作土
2．灰褐色弱粘性土
3．灰色粘性土
4．暗灰色強粘性土
5．黄褐色土（しまり強い）
6．地山

第95図　9－D区調査トレンチ土層断面図

T－2遺物出土状況

T－6遺物出土状況




第96図　9－D区出土遺物実測図

**平成４（1992）年度**

現地調査期間……平成４年５月13日～９月30日、平成４年10月５日～12月14日

調査箇所……松江市上本庄町1441－１番地外

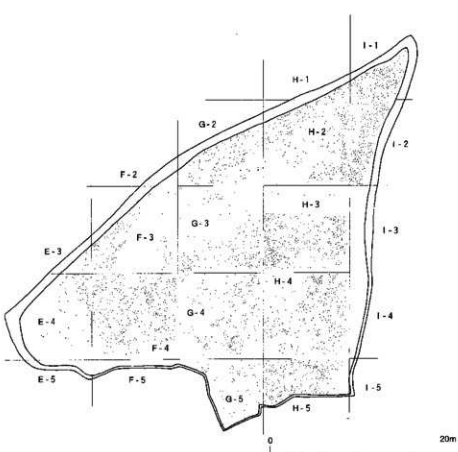
平成４年度の調査は、平成３年度に調査した京峠遺跡の残りの発掘調査及び国道431号線と本庄川に挟まれた５工区、14工区の試掘調査を実施した。

**京殿遺跡**

平成３年度に調査した、９－Ａ区、９－Ｄ区に挟まれた９－Ｂ区、９－Ｃ区について表土を重機掘削の後、調査区を10m方眼に区画割りし、全面発掘調査を実施した。調査の結果、全域に赤褐色砂礫層が広がり、遺物に関連する遺構は全く検出されなかった。

９－Ｂ区から排水溝と思われる束ねた竹を埋め込んだ溝状遺構と水田を区画割りするために作った石垣周辺に並べられた石列（土留め石）杭列が検出されたが、いずれも現在の畦畔を作った際のものと思われる。

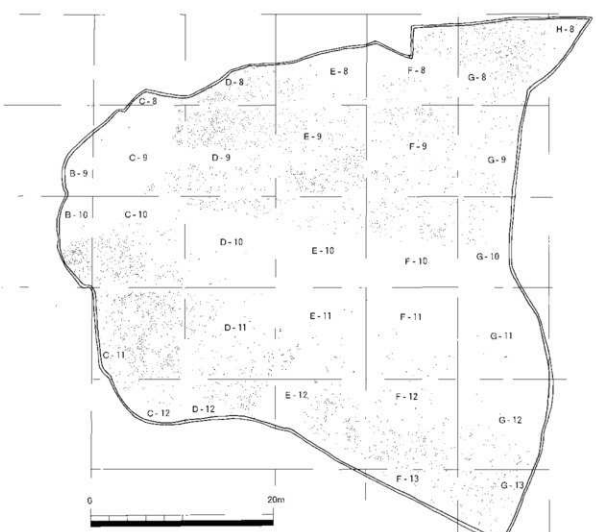
遺物については、ほぼ全域から６Ｃ～８Ｃを中心とした須恵器片、土師器片が出土した。なかでも特筆すべきものとして円筒土師器（51片）、円面硯片（１片）、硯片（１片）が出土した。遺物包含層は灰色粘性土（耕作土）、暗灰色粘性土、青灰色弱粘性砂層であったが大半の遺物は赤褐色砂礫層（無遺物層）直上から出土した。



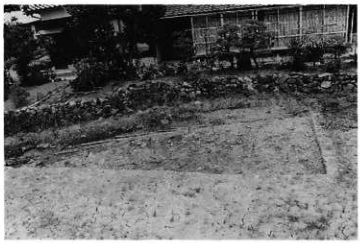

第97図　京殿遺跡（９－Ｃ区）遺物散布状況図

C－11区完掘状況

D－8区遺物出土状況




第98図　京殿遺跡（9－B区）遺物散布状況図



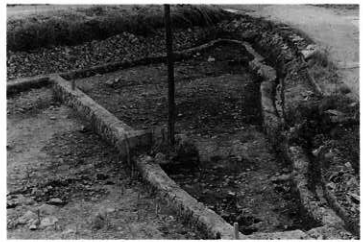
E－8区完掘状況

E－12区完掘状況

E－11区完掘状況

F－4区完掘状況

H－3区完掘状況



I－2区完掘状況

H－4区完掘状況

I－2区遺物出土状況

5工区

工事によって土を削平される区域に10×２mのトレンチを20本設定し調査を実施した。全面的に砂礫層を含んだところが多く、遺構を検出したトレンチは無かった。T－4、T－9、T－11～T　13、T－15～T－17から遺物が出土したが、量はごくわずかだった。

T－4完掘状況

T－9完掘状況

T－11完掘状況

T－12完掘状況

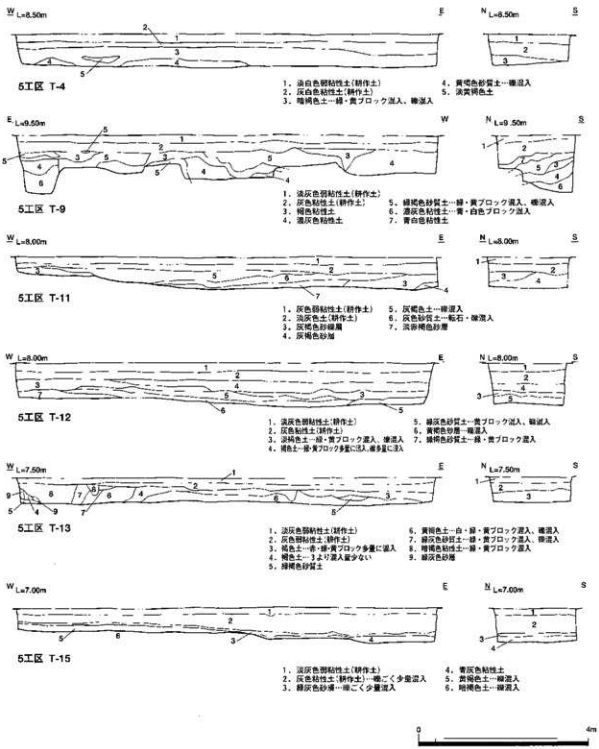
T－13完掘状況

T－15完掘状況

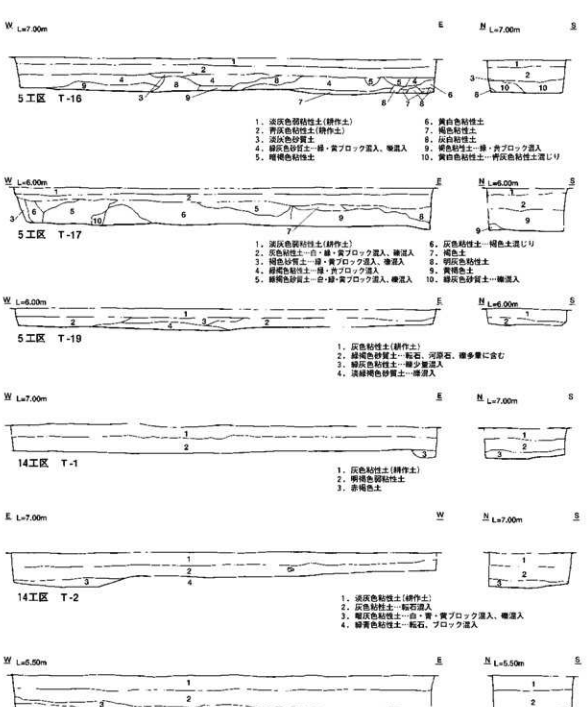
T－17完掘状況

T－16完掘状況

T－19完掘状況



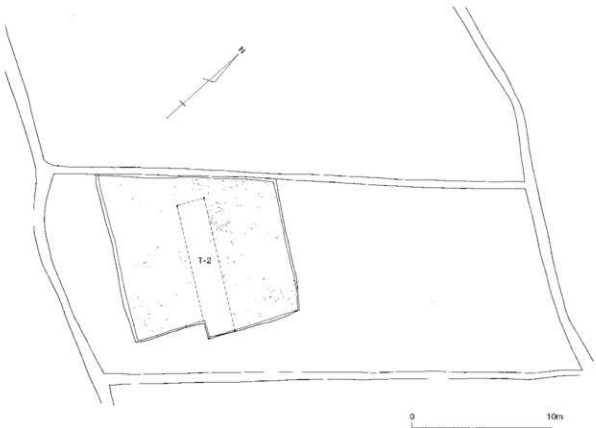

第99図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅰ）




第100図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅱ）

14工区

工事によって土を削平される区域に10×２mのトレンチを20本設定し調査を実施した。T－19から排水溝と思われる溝状遺構を検出したが、他のトレンチから遺構は検出されなかった。




第101図　14工区Ｔ－２拡張区遺物散布状況図

Ｔ－１完掘状況

Ｔ－２完掘状況

Ｔ－４完掘状況

Ｔ－６完掘状況

T－7 完掘状況

T－9 完掘状況

T－8 完掘状況

T－10完掘状況

T－12完掘状況

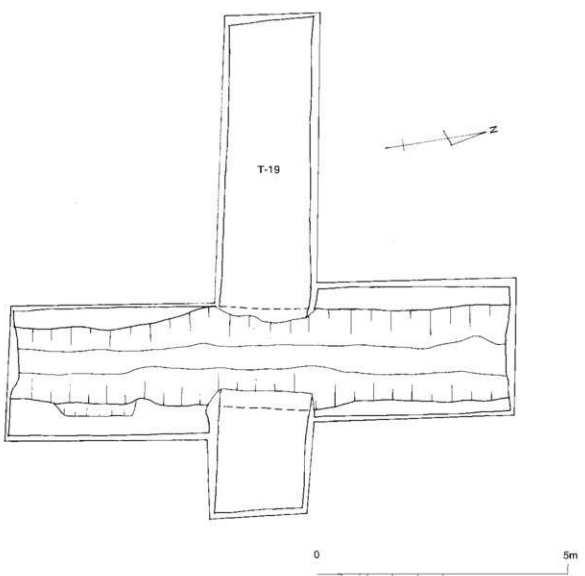
T－14完掘状況

T－13完掘状況

T－17完掘状況

T－17完掘状況

T－18完掘状況

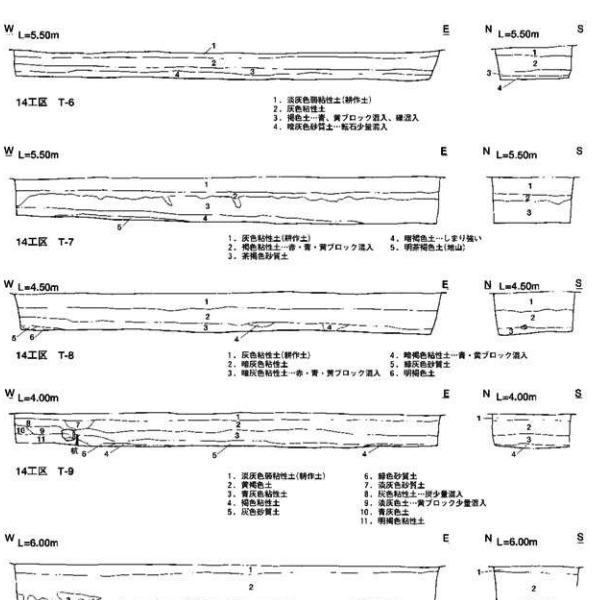



第102図　T－19拡張区ＳＤ－01実測図

14工区Ｔ－２拡張区土層堆積状況

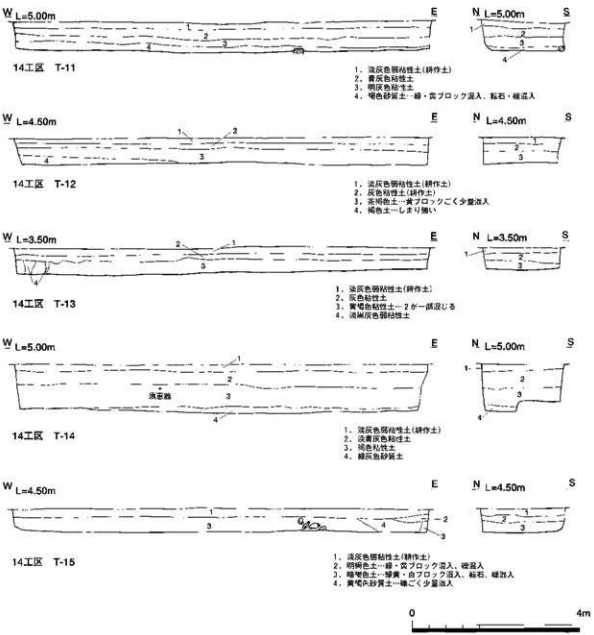
14工区Ｔ－２拡張区完掘状況

14工区Ｔ－２拡張区遺物出土状況




第103図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅲ）

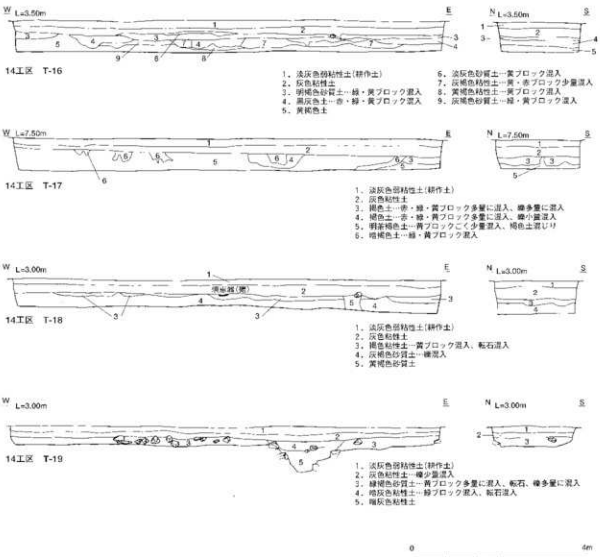
Ｔ－19を調査中に小石を含んだ砂礫層から幅180cmの粘性土を含んだ落ち込みを検出し、内部上層から須恵器の高台付坏と土師器の土鈴が出土、内部下層から土師器の高坏片と骨片が出土した。範囲、性格等を調査するためサブトレンチを設定し掘り下げたところ、南北に伸びる深さ65～70cm、上幅142～195cm、下幅30～50cmの溝状遺構（ＳＤ－01）であることがわかり、内部下層から白磁器片が出土した。溝の側面は河原石で補強してあり、溝の底部は砂が堆積していた。底部から時代の新しい白




第104図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅳ）

磁器片が出土していることから遺構の年代、性格については不明である。

遺物を検出したトレンチはＴ－１、Ｔ－２、Ｔ－４、Ｔ－６～Ｔ　19であったが、なかでもＴ　２から多量の須恵器の甕片坏片、土師器の甕片・坏片、陶磁・器片、円筒埴輪片、布目瓦片などコンテナ２箱分が出土した。

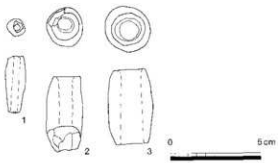



第105図　平成４年度調査トレンチ土層断面図（Ⅴ）

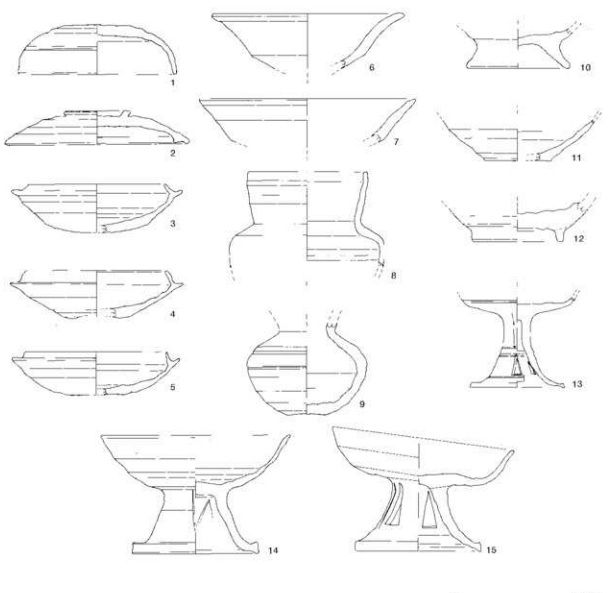
Ｔ－19完掘状況

Ｔ－19拡張区完掘状況

T－19拡張区土層堆積状況




第106図　平成４年度出土遺物実測図（Ⅰ）




第107図　平成４年度出土遺物実測図（Ⅱ）

平成５（1993）年度

現地調査期間……平成５年12月１日～平成６年２月28日

調査箇所……松江市上本庄町1456－３番地外

平成５年度は、北山農免道路を挟んで、京殿遺跡の南側の13工区と８工区の一部についての道跡の有無、範囲の確認調査を実施した。

13工区

工事によって上を削平される区域に10×２mのトレンチを20本設定し調査を実施した。京殿遺跡の南限を確認するため、工区北側と本庄側沿いを重点的に調査したが、遺跡を裏付ける遺構、遺物は検出されなかった。調査したトレンチ全面的に、耕作土の下は礫、転石を含んだ粘性土が堆積し、最終的に緑灰色の砂礫層に到達した。

遺物については、ほとんどが磨滅し、流れ込みによるものと思われる。Ｔ－４、Ｔ－９、Ｔ－14、Ｔ－16以外は遺物が出土しているが、量が比較的多かったのがＴ－５、Ｔ－12であった。いずれも土師器を中心として須恵器、弥生式土器等出土しているが、細片が多く、時代を特定できるものはわずかだった。

Ｔ－１完掘状況

Ｔ－２完掘状況

T－3 完掘状況

T－6 完掘状況

T－5 完掘状況

T－7 完掘状況

T－8 完掘状況

T－11完掘状況

T－10完掘状況

T－12完掘状況

T－13完掘状況

T－17完掘状況

T－15完掘状況

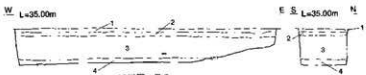
T－18完掘状況

13工区 T-1

1、淡灰色弱粘性土(耕作土)
2、暗灰色粘性土～砕・黄ブロック少量混入

13工区 T-2

1、淡灰色弱粘性土(耕作土)
2、灰色粘性土(耕作土)
3、褐色弱粘性土～礫・炭・ブロック混入
4、暗灰色粘性土～転石混入




13工区 T-3

1、淡灰色弱粘性土(耕作土)
2、暗灰色粘性土(耕作土)
3、褐色粘性土～砕・黄ブロック混入
4、灰色弱粘質砂質土

13工区 T-5

1、淡灰色弱粘性土(耕作土)
2、灰色粘性土(耕作土)
3、淡赤褐色～白・炭ブロック混入、礫混入
4、灰褐色土～青灰に固い
5、灰色砂質土
6、茶色土～砕少量混入
7、緑灰色土
8、灰褐色土～転石充填

13工区 T-6

1、明灰褐色弱粘性土(耕作土)
2、明灰色弱粘性土(耕作土)
3、褐色粘性土～砕少量混入
4、緑灰色砂質土

13工区 T-7

1、灰褐色弱粘性土(耕作土)
2、褐灰色弱粘性土(耕作土)
3、灰色粘性土
4、褐色粘性土～礫・青ブロック少量混入
5、緑灰色砂質土

13工区 T-8

1、灰褐色弱粘性土(耕作土)
2、褐色粘性土～転石、砕多量混入
3、緑灰色砂質土～転石、砕多量混入

13工区 T-10

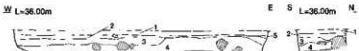
1、灰褐色弱粘性土(耕作土)
2、灰色粘性土
3、淡緑灰色粘性土
4、暗灰色砂質土～転石、砕多量混入

第108図 平成5年度調査トレンチ土層断面図（1）

13工区　T-11

1．灰褐色弱粘性土（耕作土）
2．灰色弱粘性土（耕作土）
3．褐色粘性土―粘石、砂多量混入
4．明褐色砂質土―砂少量混入
5．緑灰色砂質土―粘石、砂多量混入

13工区　T-12

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．灰色粘性土
3．淡緑灰色砂質土―砂多量混入
4．暗灰色粘性土―粘石、砂混入

13工区　T-13

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．灰色粘性土
3．淡褐色混粘性土
4．灰褐色砂礫層
5．褐色粘性土

13工区　T-15

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．青褐色砂礫層
5．緑灰色砂質土―砂混入

13工区　T-17

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．赤褐色弱粘性土―粘石、礫多量混入
3．淡緑灰色砂質土―砂混入
4．緑灰色弱粘性砂質土―粘石、礫混入
5．褐色砂質土―砂混入
6．赤褐色砂質土

13工区　T-18

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．暗褐色粘性土―赤ブロック混入
3．赤褐色粘性土―砂、赤ブロック混入
4．淡緑灰色砂礫層
5．暗灰色粘性土―粘混入
6．淡緑灰色砂質土
7．淡緑灰色粘性土―礫多量混入

13工区　T-19

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．灰色土―礫多量に含む
3．赤褐色粘性土
4．緑灰色砂質土―粘石、礫混入
5．赤褐色粘性土―粘石混入
6．淡緑灰色砂質土

13工区　T-20

1．淡灰色弱粘性土（耕作土）
2．赤褐色粘性土―粘石、礫多量混入
3．灰褐色粘性土―炭ブロック混入
4．赤褐色粘性土―しまり強い
5．淡灰色粘性土
6．暗褐色土―固い
7．褐色土―固い
8．黄褐色土―サラサラしている

T－19完掘状況

T－20完掘状況

8工区

工事によって土を削平される区域に10×2mのトレンチを20本設定し調査を実施した。本庄川流域条里制遺跡の畔の存在が予想される作道2カ所を重点的に調査したが、遺跡を裏付ける遺構、遺物は検出されなかった。調査したトレンチ全面的に、耕作土の下は赤灰褐色の粘性土が堆積し、最終的に緑灰色の砂礫層に到達した。

遺物については、T－7、T－8、T－9以外のトレンチで少量出土しているが、ほとんどが磨滅し、流れ込みによるものだと思われる。

T－1完掘状況

T－2完掘状況

T－3完掘状況

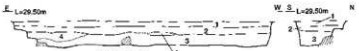
T－4完掘状況

8工区　T-1

1．淡灰色粘質性土（耕作土）
2．灰褐色粘性土
3．緑灰色砂質層
4．灰色粘性土
5．淡褐色砂質層
6．淡緑灰色砂礫層
7．赤褐色砂質土
8．緑褐色砂質土
9．暗灰色粘性土
10．緑灰色粘性土～粘石混入
11．暗灰色粘性土～緑砂混合

8工区　T-2

1．淡灰色粘質性土（耕作土）
2．淡灰色粘性土
3．灰色粘性土～白・黄・黒ブロック混合
4．暗灰色粘性土
5．緑褐色砂礫層
6．青灰色粘性砂質土
7．淡褐色土
8．灰褐色粘性土




8工区　T-3

1．淡灰色砂粘性土（耕作土）
2．暗灰色粘性土～礫多量混入
3．淡緑灰色粘性土～転石混入
4．緑灰色砂質土

8工区　T-4

1．淡灰色粘性土（耕作土）
2．緑褐色粘性土～礫混入
3．淡緑灰色粘質砂質土～転石礫多量混入

8工区　T-5

1．淡灰色粘性土（耕作土）
2．暗灰褐色粘性土～内・黒ブロック混入
3．緑灰色砂質土～転石、礫混入
4．緑灰色粘砂礫層

8工区　T-6

1．淡灰色砂粘性土（耕作土）
2．褐色土
3．暗灰褐色土～赤・黒ブロック混入
4．緑灰色砂粘性砂質土
5．淡緑灰色砂礫層

8工区　T-10

1．淡灰色砂粘性土（耕作土）
2．褐色粘性土
3．緑灰色砂粘性砂質土
4．淡緑灰色砂質土～転石、礫混入
5．淡褐色粘性土
6．淡色粘性土～礫多量混入

T－5 完掘状況

T－10完掘状況

T－6 完掘状況